

平成20年度

事業報告書

平成20年4月 1日から
平成21年3月31日まで



財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

I. 役員会等	1
II. 科学技術振興事業	2
III. 科学技術館事業	3
IV. 情報システム事業	5
V. 所沢航空発祥記念館運営事業	5

資 料 編

I. 役員会等	8
II. 科学技術振興事業	14
III. 科学技術館事業	21
IV. 情報システム事業	39
V. 所沢航空発祥記念館運営事業	44

平成 20 年度事業報告書

平成 20 年度(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)は、年度当初の事業計画に基づき所期の目標を達し、成果をあげることができました。

これはひとえに、国、産業界、学会ならびに J K A、日本財団、日本宝くじ協会など関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本年度実施しました事業の概要は次のとおりです。

I. 役員会等 (詳細は別紙資料編 8 ページ参照)

1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 会長・副会長会議の開催
- (4) 三財団連絡会議の開催

2. 対外機関との連携活動

- (1) 賛助員活動
- (2) 企業・団体との連携活動

3. 建物および建築設備の維持管理

- (1) 空調設備機器の改修
- (2) アスベスト除去
- (3) 給水管漏れ修理
- (4) 防水工事の実施

4. 企画広報活動

(1) 企画活動

- ① 科学技術館新館構想
- ② 調査事業

(2) 広報活動

- ① 財団広報誌「JSF Today」の発行
- ② 科学技術館メールマガジンの発行
- ③ 「散歩のおとも」(北の丸公園の自然)の販売
- ④ 「財団ロゴマーク」、「科学技術館」の名称の商標登録
- ⑤ 「青少年のための科学の祭典」に対する TV 取材・放映についての対応
- ⑥ 科学技術館動画配信

(3) その他

- ①財団内における新規事業企画提案・事業改善提案制度の新設
- ②「科学技術館メールマガジン散歩のおとも写真展」開催
- ③評議員会・理事会における展示
- ④エコ・エネルギー科学教室
- ⑤ノーベル賞展
- ⑥学会発表
- ⑦他組織との連携

5. その他の活動

(1) 叙勲、国家褒章等の候補者推薦

(2) 館施設の活用

- ①催事場
- ②サイエンスホール
- ③会議室

II. 科学技術振興事業 (詳細は別紙資料編 14 ページ参照)

1. 調査研究事業

(1) エネルギー技術の調査研究

2. 普及啓発事業

(1) 映像による科学技術の普及活動

- ①第49回科学技術映像祭の開催 ((財)つくば科学万博記念財団他との共催事業)
- ②科学技術映像ライブラリー活動

(2) 「青少年のための科学の祭典」の開催

(文部科学省受託事業、企業・団体の協賛による自主事業)

(3) サイエンスキャンプ2008の開催

((独)科学技術振興機構受託事業)

(4) 学びんピック

(文部科学省請負事業)

(5) 生物チャレンジ2008の実施および国際生物学オリンピックへの日本代表派遣の実施

((独)科学技術振興機構支援事業)

(6) 物理チャレンジ2008の実施および国際物理オリンピックへの日本代表派遣の実施

((独)科学技術振興機構支援事業)

(7) 第20回国際生物学オリンピック(2009年)

((独)科学技術振興機構支援事業)

(8) 第42回国際化学オリンピック(2010年)

((独)科学技術振興機構支援事業)

(9) 日本科学オリンピック推進委員会

(10) キッズ・フロンティア・ワークショップの開催

((財)新技術開発財団受託事業)

(11) 地域活動支援事務局業務

((独)科学技術振興機構受託事業)

(12) その他の科学技術普及啓発事業

Ⅲ. 科学技術館事業

(詳細は別紙資料編 21 ページ参照)

1. 科学技術館運営事業

(1) 展示活動

- ①展示の更新
- ②展示室の整備
- ③展示の解説および実演
- ④入館者の安全管理

(2) 教育普及活動

- ①科学技術館サイエンス友の会活動
- ②パソコン道場運営

(3) 連携・交流事業

- ①学校・地域との連携
- ②企業との連携
- ③天文・宇宙分野での連携事業
- ④博物館連携活動
- ⑤その他の連携事業

(4) 特別展・イベント事業

- ①第 49 回科学技術週間サイエンスカフェ&科学技術における「美」パネル展
- ②日本自然科学写真展ー自然の中の不思議を知るー
- ③ロボット EMIEW とあそぼう
- ④GWイベントー万華鏡工作教室ー
- ⑤エコ・エネルギー科学教室～親子で地球温暖化を考える～
- ⑥コズミックカレッジ
- ⑦夏休みバイオ実験教室「バイオでわかる生きもののふしぎ」
- ⑧夏休み特別展「サイエンスカーニバル 2008 夏編」
- ⑨科学技術館メールマガジン特別企画 散歩のおとも写真展
- ⑩第 26 回マイクロマウス東日本地区大会
- ⑪特別展「日本のノーベル賞科学者展」と講演会
- ⑫ものづくり体験「たたら製鉄」
- ⑬生物学者と天文学者が語る「からだの中の小宇宙」トークショー

- ⑭高知大学バイオ&アグリ・オープン・スクール
「Welcome to 高(知・智・地)サイエンス ヴィレッジ」～高知の自然から、おもしろ科学の贈り物～
- ⑮国際科学映像祭 ドーム&立体プレイベント 2009
- ⑯科学ライブショー「ユニバース」の実施
- ⑰ミニイベント

(5) 広報活動

- ①メディア
- ②入館者誘致
- ③入館者状況
- ④展示の特別案内

(6) 巡回展

- ①巡回型展示「美を科学する」制作 (日本財団助成事業)
- ②マグネット展 (開催回数 1 回)
- ③実験ジャー
- ④すずきまどか実験ショー
- ⑤ラビレット展
- ⑥スポーツの科学
- ⑦出張ユニバース
- ⑧感覚体感フィールド展
- ⑨ノーベル賞展

(7) 学芸活動

- ①博物館学芸員養成活動
- ②学会等発表
- ③科学技術館学芸活動紀要

2. 企画・コンサルティング事業

(1) 教育・文化関連事業

- ①鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務 (財)鳥取市文化財団受託業務
- ②青森県立三沢航空科学館メンテナンス業務 (NPO 法人テイクオフみさわ受託事業)
- ③横須賀市浦賀ドックサイエンスイベント (横須賀市受託事業)
- ④岡崎市子ども科学館(仮称)基礎調査及び基本構想策定業務 (岡崎市教育委員会受託事業)
- ⑤平成 20 年度環境測定分析環境測定分析統一精度管理調査 情報システムの運用業務
(財)日本環境衛生センター請負事業
- ⑥平成 20 年度自然環境保全センター新本館展示施設整備業務
(神奈川県自然環境保全センター受託業務)
- ⑦科学技術館・原子力展示室 改装設計・施工
(電気事業連合会及び原子力発電環境整備機構受託事業)
- ⑧平成 20 年度科学的思考に沿った環境教育プログラムの開発等業務
(環境省請負事業)

⑨大成風のミュージアムリニューアル

(大成高校受託事業)

⑩その他

IV. 情報システム事業 (詳細は別紙資料編 39 ページ参照)

1. 簡易放射線測定器「はかるくん」の貸出し委託業務 (文部科学省受託事業)

2. 平成 20 年度電源立地推進調整等事業(放射線教室) (東北経済産業局受託事業)

3. 平成 20 年度原子力安全規制情報広聴・広報事業の委託業務 (経済産業省受託事業)

4. 平成 20 年度科学技術振興に関する開発研究等補助事業 (J K A 補助事業)

5. 自主研究開発事業

(1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発

(2) 博物館における教育情報発信に関する研究

6. 受託開発事業

(1) 情報処理システムの研究開発

(2) P L M およびその関連システムの研究開発

(3) マルチメディア・データベースシステムの研究開発

(4) 新エネルギーシステムの研究開発

(5) その他

7. 情報処理サービス事業

V. 所沢航空発祥記念館運営事業 (詳細は別紙資料編 44 ページ参照)

1. 展示活動

(1) 展示資料の収集

(2) 展示の修繕・保守

(3) 展示の更新

(4) 展示資料の借用

(5) 展示資料の近代化産業遺産群認定

(6) 航空遺産資料の調査研究

(7) その他

2. 特別展等の開催
 - (1) 特別展の開催
 - (2) ミニイベント
 - (3) 実験ショー

3. 公開講座の開催
 - (1) 「大学航空操縦学専攻におけるエアライン・パイロット養成～ANAと東海大学～」
 - (2) 「重要航空遺産・九一式戦闘機の歴史的意義」
 - (3) 「JAXAタウンミーティング」
 - (4) 「航空交通管制と東京航空交通管制部施設見学会」
 - (5) 「映画『フライング☆ラビッツ』に見る現代の客室乗務員」
 - (6) 「ノーベル賞に関するトリビア(雑学的知識)」
 - (7) 「日本大学から生まれた軽飛行機たち～木村秀政関係資料から～」

4. 普及啓発活動
 - (1) 学習支援プログラムの開始

5. 格納庫・収蔵庫およびYS-11機の特別公開

6. 「県民の日」記念事業

7. 連携活動

8. 航空機インストラクター活動
 - (1) 飛行機教室の開催
 - (2) 展示航空機保守メンテナンス
 - (3) 展示解説
 - (4) 「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に対する質問対応

9. 広報活動
 - (1) 一般広報
 - (2) 特別展広報
 - (3) 団体誘致活動

10. 入館者状況

平成20年度事業報告

資料編

目次

I. 役員会等	8
II. 科学技術振興事業	14
III. 科学技術館事業	21
IV. 情報システム事業	39
V. 所沢航空発祥記念館運営事業	44

I. 役員会等

1. 会議の開催

(1) 理事会の開催

①第 206 回 平成 20 年 6 月 18 日

- ・平成 19 年度事業報告(案)
- ・平成 19 年度決算報告(案)
- ・会長・副会長互選の件
- ・常任理事委嘱承認の件
- ・評議員委嘱承認の件
- ・顧問委嘱承認の件
- ・専務理事委嘱承認の件
- ・常務理事委嘱承認の件
- ・常勤役員の有給承認の件
- ・常勤役員の退職慰労金に関する件
- ・平成 20 年度補助事業実施に関する件
- ・平成 20 年度助成事業実施に関する件

②第 207 回 平成 20 年 9 月 19 日

- ・平成 20 年度第 1・四半期事業実施報告

③第 208 回 平成 20 年 12 月 19 日

- ・短期借入金限度額変更の件
- ・平成 20 年度第 2・四半期事業実施報告

④第 209 回 平成 21 年 3 月 17 日

- ・平成 21 年度事業計画(案)
- ・平成 21 年度収支予算(案)
- ・評議員委嘱承認の件
- ・鉦工業技術振興基金の一部の基本財産への繰り入れの件
- ・平成 20 年度第 3・四半期事業実施報告

(2) 評議員会の開催

①第 64 回 平成 20 年 6 月 18 日

- ・平成 19 年度事業報告(案)
- ・平成 19 年度決算報告(案)
- ・理事選任の件
- ・監事選任の件
- ・平成 20 年度補助事業実施に関する件
- ・平成 20 年度助成事業実施に関する件

②第 65 回 平成 21 年 3 月 17 日

- ・平成 21 年度事業計画(案)
- ・平成 21 年度収支予算(案)
- ・理事選任の件
- ・鉱工業技術振興基金の一部の基本財産への繰り入れの件
- ・平成 20 年度第 3・四半期事業実施報告

(3) 会長・副会長会議の開催

①第 25 回 平成 20 年 6 月 17 日

②第 26 回 平成 20 年 9 月 11 日

③第 27 回 平成 21 年 3 月 12 日

(4) 三財団連絡会議の開催

平成 20 年 5 月 29 日

(財)大阪科学技術センター、(財)中部科学技術センター、(財)日本科学技術振興財団の近況報告と、今後の連携活動についての会議を開催しました。

2. 対外機関との連携活動

(1) 賛助員活動

財政基盤の安定を図るため、賛助員の拡大に努めました。

(2) 企業・団体との連携活動

財団全体の窓口として、企業・団体との連携拡大に努めました。

3. 建物および建築設備の維持管理

下記の工事を実施しました。

(1) 空調設備機器の改修

- ・展示棟 5 階メカ空調設備(空調機・ダクト更新)

(2) アスベスト除去

- ・展示棟 5 階ユニバース

(3) 給水管漏れ修理

- ・正面玄関前給水管の水漏れ補修

(4) 防水工事の実施

- ・催事場(6 号・10 号)
- ・事務棟 6 階会議室
- ・地下変電室

4. 企画広報活動

(1) 企画活動

①科学技術館新館構想

科学技術館新館構想プロジェクト検討会議を開催し、科学技術館新館構想のコンセプトを

「新生科学技術館構想について」としてとりまとめ、総合科学技術会議、文部科学省等、関係各所に働きかけを行いました。

②調査事業

1)平成19年度来館者調査

昨年度実施した来館者調査の結果を「平成19年度 科学技術館科学技術理解増進活動基礎調査 一科学技術館来館者調査編一 報告書」としてとりまとめ、関係者に配布しました。

2)平成20年度来館者調査

科学技術館事業部と共同して、科学技術館来館者の科学技術に対する意識、理科の素養、展示の評価等について調査を行いました。

*個人来館

- ・調査実施日：8月14日～20日
- ・調査件数： 大人：450件 子ども：380件

*団体来館

- ・調査実施日：10月22日～28日(26日、27日除く5日間)
- ・調査件数： 子ども：390件

*展示室調査(ガス展示室)

- ・調査実施日：8月21日～25日
- ・調査件数： 大人：308件 子ども：354件

3)平成20年度青少年のための科学の祭典調査

振興事業部と共同して祭典来場者の科学技術に対する意識、理科の素養、祭典に対する評価等について調査を行いました。

*全国大会(科学技術館)

- ・調査実施日：7月25日～27日
- ・調査件数： 大人：580件 子ども：600件 出展者：157件

*福井大会(エンゼルランド福井)

- ・調査実施日：10月11日～12日
- ・調査件数： 大人：163件 子ども：178件 出展者：181件

*岡山大会(岡山県立岡山一宮高等学校)

- ・調査実施日：2月21日～22日
- ・調査件数： 大人：142件 子ども：132件 出展者：97件

4)「科学館における効果的な環境・エネルギー教育プログラムの開発に関する調査研究」の実施

(財)新技術振興渡辺記念会からの研究助成を受け、科学技術館来館者の環境・エネルギーに関する素養、展示の評価等について調査を行いました。

- ・調査実施日：3月27日～30日
- ・調査件数： 大人：136件 子ども：210件

5)「科学技術館勉強会」の実施

財団内部強化の一環として、職員・スタッフを対象とした科学技術館勉強会を次の通り実施しました。

*第3期 科学技術館勉強会

第3回 4月3日

- ・理科教育・科学教育の現状と課題
—PISA2006の結果について—

第4回 4月8日

- ・科学リテラシー育成における科学系博物館の役割
- ・科学技術館が果たすべき役割
—ユニバーズ運営の現状と今後の展望—

第5回 4月22日

- ・科学技術館サイエンス友の会会員意識調査の結果
- ・科学技術館来館者意識調査の結果

*第4期 科学技術館勉強会

第1回 11月11日

- ・企画開発・運営管理とは
- ・博物館ができるまで

第2回 11月18日

- ・変わりつつある博物館の運営形態
- ・運営の事例：三沢航空科学館
- ・運営の事例：所沢航空発祥記念館

第3回 12月3日

- ・補助事業とは
- ・巡回展「感覚体験フィールド」
- ・ウェアラブル機器を利用した科学館学習支援システムに関する研究開発
- ・中学生のための科学技術体験合宿プログラムの開発に関する調査研究

第4回目 1月7日

- ・財団を支える収益事業
- ・科学館サービスの仕事

第5回目 2月4日

- ・博物館運営と指定管理者

(2) 広報活動

①財団広報誌「JSF Today」の発行

◆108号(H20年4月)特集

：科学技術館のエントランスとミュージアムショップが大変身

◆109号(H20年7月)特集

：科学技術館における調査研究および開発～さまざまなネットワークを活かした連携～

◆110号(H20年10月)特集

：科学技術館立体フルデジタルドームシアター「シンラドーム」誕生！

◆111号(H21年1月)特集

：「経験」を通して「意識」を身につける！科学技術館ならではの博物館実習

②科学技術館メールマガジンの発行

毎週水曜日に科学技術館メールマガジンを発行し、財団・科学技術館の情報を配信しました。

・177号～226号 会員数 3月現在 7,266名

③「散歩のおとも」（北の丸公園の自然）の販売

・草木編 584冊

・動物編 259冊 合計 843冊

④「財団ロゴマーク」、「科学技術館」の名称の商標登録

「財団ロゴマーク」及び「科学技術館」の名称について、商標登録を出願しました。

財団シンボルマーク・ロゴタイプの Visual Identity ガイドライン並びに電子データの制定
財団シンボルマーク・ロゴタイプの Visual Identity ガイドライン並びに電子データ(マスターデータ)を制定しました。

⑤「青少年のための科学の祭典」に対する TV 取材・放映についての対応

「青少年のための科学の祭典」について、TV 取材・放映について対応し、以下の番組で紹介されました。

・7月25日 11:30～ フジテレビ「スピーク」

・7月25日 18:10～ NHK「首都圏ネット」

⑥科学技術館動画配信

科学技術館事業部、情報システム開発部と連携し、3月24日にオープンした「アトミックステーション ジオ・ラボ」、4月3日にオープンした「ワクエコ・モーターランド」の動画の配信を実施しました。

(3) その他

①財団内における新規事業企画提案・事業改善提案制度の新設

財団職員が新規事業企画提案、事業改善提案を出しやすい環境を整備し、事業の活性化をはかるべく「新規事業企画提案・事業改善提案制度」を財団内に新設しました。

②「科学技術館メールマガジン散歩のおとも写真展」開催

科学技術館メールマガジンで紹介してきた自然写真を館内に展示するとともに、北の丸公園で動植物の観察会を実施し、好評を博しました。

・写真展： 開催日 8月9日～17日

・観察会： 実施日 8月9日(植物)、8月16日(動物)

③評議員会・理事会における展示

第64回評議員会・第206回理事会にて科学技術館事業部にて企画・製作した『巡回展「感覚体感フィールド」』の展示物の一部を展示しました。また、第65回評議員会・第209回理事会にて、科学技術館メールマガジンにて好評を博している「自然と友だち」の写真展示並びにスライドショーの上映を行いました。

④エコ・エネルギー科学教室

科学技術館事業部で実施した「エコ・エネルギー科学教室」に、企画広報室も協力しました。

⑤ノーベル賞展

科学技術館事業部で開催した「ノーベル賞展」について企画広報室も協力しました。

⑥学会発表

- ・日本ミュージアムマネジメント学会研究紀要第 12 号に、平成 18 年度日本自転車振興会の補助金を受けて実施した博物館におけるデジタル映像利用調査を「博物館におけるデジタル映像技術の導入の現状と課題に関する調査研究」として論文発表しました。
- ・日本ミュージアムマネジメント学会第 13 回年次大会において、昨年度実施した来館者調査について「博物館利用者研究～科学技術館来館者の科学的リテラシーと展示効果の相関～」として発表しました。
- ・日本ミュージアムマネジメント学会 基礎部門研究部会において、「博物館が社会に政策提言していくために」と題し、当財団で行っている来館者調査等をベースに、博物館界全体の調査・評価の必要性を提言しました。
- ・第 32 回日本科学教育学会年において、昨年度実施した来館者調査の結果を「科学技術館来館者に対する展示効果と科学的リテラシーとの関係性について」として発表しました。

⑦他組織との連携

- ・科学的リテラシー醸成活動の一環として、国立科学博物館と連携しカリキュラム開発「鉄をとりだしてみよう」を行い、当館サイエンス友の会の子ども達に実施しました。
(実施日：8月17日)
- ・九段小学校と連携し、小学校理科天文の単元の授業支援を行いました。
(実施日：7月9日、11日、16日、24日)
- ・大妻女子大学と連携し、都内小学生を対象に昆虫と天文の観察会を実施しました。
(実施日：7月27日、8月3日、4日)

5. その他の活動

(1) 叙勲、国家褒章等の候補者推薦

- ①平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)
永井 昭三 科学技術館サイエンス友の会非常勤講師

(2) 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を新技術の普及の場として運営しております。本年度の主な出展、利用件数は次のとおりです。

①催事場

- ・青少年のための科学の祭典
- ・暮らしを支える科学と技術展
- ・法務省 矯正展
- ・特許・情報フェア
- ・弦楽器フェア
- ・自転車のヘルメット展

他 73 件

合計 79 件

②サイエンスホール

- ・科学技術映像祭
- ・世界禁煙デー シンポジウム
- ・中学校理科研究発表会
- ・日本風力エネルギーシンポジウム
- ・海外、国内ロングステイフォーラム
- ・環境研究セミナー

他 259 件

合計 265 件

③会議室

- ・風力発電システム技術講習会
- ・国際情報分析セミナー
- ・夏休み親子体験学習会
- ・原子力体験セミナー
- ・安全安心な学校づくりセミナー

他 884 件

合計 889 件

II. 科学技術振興事業

本事業は、科学技術の振興に役立つ諸活動を展開していく事業です。

活動内容としては、科学技術振興活動などに関する調査を行う「調査研究事業」と、映像による科学技術の普及活動、青少年を対象とした科学技術体験型イベントや、技術者・研究者を対象としたシンポジウムの開催等による「普及啓発事業」の2つに分かれています。

今年度実施した主な事業は次のとおりです。

1. 調査研究事業

(1) エネルギー技術の調査研究

エネルギー変換懇話会の活動の一環として下記の活動を行いました。

3月4日 第1回エネルギー変換懇話会シンポジウムを開催しました。「バイオマス燃料」というテーマのもとで、各界から16名の参加者があり、活発な議論が展開されました。また、バイオマス燃料については9月3日および12月4日にも定例研究会を行い、それぞれ19名、32名の参加を得ました。

2. 普及啓発事業

(1) 映像による科学技術の普及活動

①第49回科学技術映像祭の開催 ((財)つくば科学万博記念財団他との共催事業)

科学技術映像祭は、優れた科学技術に関する映像を推奨し、科学技術の普及と向上を図ること

を目的とするもので、当財団と(財)つくば科学万博記念財団、(財)日本科学映像協会、(社)映像文化製作者連盟の4者共催により実施しました。応募された63作品(映画41本、テレビ番組22本)のうち下記の優秀作品7本を推奨しました。

4月18日に科学技術館サイエンスホールで表彰式を開催すると共に、17日、18日の両日、入選作品の上映会を行いました。

◆内閣総理大臣賞(1作品)

ポピュラーサイエンス部門

- ・テレビ 命をつなぐ～臓器移植法10年 救急医療の現場から～
企画・制作 北海道放送(株)

◆文部科学大臣賞(6作品)

科学教育部門	1作品
基礎研究部門	1作品
科学技術部門	0作品
医学部門	1作品
ポピュラーサイエンス部門	3作品

また、つくばエキスポセンター他13会場において「第49回科学技術映像祭」入選作品の上映会を行いました。

②科学技術映像ライブラリー活動

今年度の映像ライブラリー貸出状況は次の通りです。

- ・貸出件数 2件
- ・貸出本数 4本
- ・映画会回数 6回
- ・観覧延人員 800人

(2)「青少年のための科学の祭典」の開催

(文部科学省、青少年のための科学の祭典実行委員会との共催事業)

文部科学省受託事業である全国大会および地方2大会(福井県、岡山県)の実行委員会を組織し、開催しました。

<文部科学省受託事業> 参加者 合計 48,618人

東京都・全国大会 7月25日～27日

福井県・福井大会 10月11日、12日

岡山県・岡山大会 2月21日、22日

一方、企業・団体の協賛による自主事業(財団と各大会実行委員会等とで主催)として、下記の通り、全国で100大会を開催しました。財団は開催ノウハウの提供・指導や資金的な分担を行っています。

<自主事業> 参加者 合計 372,604人

北海道 28大会

東北 青森・秋田・山形・宮城 4大会

関東甲信越	茨城・千葉・神奈川・東京・山梨・長野・新潟	24大会
東海・中部	静岡・愛知・岐阜・三重・富山・福井	9大会
近畿	滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・神戸	14大会
北陸・中国	島根・岡山・広島・山口	7大会
四国	徳島・香川・愛媛・高知	6大会
九州	長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島	8大会

(3) サイエンスキャンプ2008の開催 ((独)科学技術振興機構受託事業)

次代を担う高校生、高等専門学校生(1～3年)に、科学技術を身近なものと感じてもらうため、科学技術体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ2008」を夏休み、冬休み及び春休みに開催しました。

広報活動として募集要項、チラシ等を作成し、全国の高等学校及び高等専門学校へ送付すると共に、ホームページ等での広報を行いました。

その結果、大学、公的研究機関、民間企業の79会場で科学技術体験合宿が開催され、2,768名の応募者があり、選考の結果、1,009名が参加して最先端の科学技術の現場を体験しました。

<サマー・サイエンスキャンプ>

(会場数 49 応募者数 1,424名 参加者数 611名)

国公立大学 10会場

私立大学 5会場

公的研究機関 32会場

企業 2会場

<ウインター・サイエンスキャンプ>

(会場数 13 応募者数 571名 参加者数 192名)

国公立大学 8会場

私立大学 2会場

公的研究機関 3会場

<スプリング・サイエンスキャンプ>

(会場数 17 応募者数 773名 参加者数206名)

国公立大学 2会場

私立大学 5会場

公的研究機関 4会場

企業 6会場

(4) 学びんピック (文部科学省請負事業)

「学びんピック」とは、児童生徒が様々な力を競い高め合う文化的な全国的規模の大会等を文部科学省が認定し支援する事業です。

平成20年度は、これまでの「学びんピック」の大会概要(認定大会数、大会主催者および参加者アンケート調査結果等)をとりまとめ、ホームページに掲載しました。また、平成20年度「学びんピック」認定大会について開催スケジュール等を随時更新しました。「学びんピック」事業は、平成21年3月末をもって終了致しました。

(5) 生物チャレンジ2009の実施および国際生物学オリンピックへの日本代表派遣の実施

((独)科学技術振興機構支援事業)

①第19回国際生物学オリンピック(以下IBO2008)日本代表の派遣

IBO2008(期間:2008年7月13日~20日 開催国/都市:インド/ムンバイ)に派遣する日本代表4名を決定し、平成20年4月16日に発表しました。

日本代表4名に対しては、国際生物学オリンピック日本委員会が、筑波大学、東邦大学、明治大学を会場に4回にわたる特別教育を実施しました。

IBO2008参加成績は、次の通り、代表全員がメダルを獲得しました。

<第19回国際生物学オリンピック日本代表と参加成績(学年は当時)>

銀メダル	内海 邑	千葉県立東葛飾高等学校(千葉県)	3年
銀メダル	海老沼 五百理	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	3年
銀メダル	大河原 健太郎	麻布高等学校(東京都)	2年
銅メダル	水野 俊一郎	福井県立藤島高等学校(福井県)	3年

②第1回全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2008」の開催

平成21年7月に茨城県つくば市で開催される「第20回国際生物学オリンピック」に参加する日本代表選考を兼ねた、第1回全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2008」第一次試験を平成20年7月20日に全国47都道府県66カ所(前年は57カ所)の大学、高等学校を会場に実施しました。

「生物チャレンジ2008」の参加申込者は2,482名で前年の1488名から大幅な増となりました。第一次試験の結果から選抜された成績優秀者77名に対し、平成20年8月21日~24日の3泊4日の合宿形式による第二次試験を筑波大学において開催しました。

最終選考となる第三次試験は、11月23日に科学技術館で実施し、第一次、第二次試験により選抜された高校2年生以下の15名が挑戦しました。その結果、国際生物学オリンピック日本委員会による日本代表選考会議を経て4名の日本代表が決定し、日本代表は2008年12月6日に記者会見を開き発表しました。その後日本代表4名は、春休みと冬休み、ゴールドデンウィークそして6月の計4回の特別教育を受け2009年7月の国際大会に臨みます。

<第20回国際生物学オリンピック日本代表(氏名50音順)>

大月 亮 太	千葉県立船橋高等学校(千葉県)	3年
中山 敦 仁	灘高等学校(兵庫県)	2年
谷中 綾 子	桜蔭高等学校(東京都)	2年
山川 真 以	桜蔭高等学校(東京都)	3年

(6) 物理チャレンジ2008の実施および国際物理オリンピックへの日本代表派遣の実施

((独)科学技術振興機構支援事業)

①第39回国際物理オリンピック(以下IPh02008)日本代表の派遣

平成20年4月16日、IPh02008日本代表5名を発表し、2008年7月20日~29日にベトナム/ハノイで開催されたIPh02008に派遣しました。参加成績は、次の通りで、参加した代表5名全員が入賞以上という成果をあげました。

<第39回国際物理オリンピック日本代表と参加成績(学年は当時)>

金メダル	村 下 湧 音	灘高等学校(兵庫県)	3年
銀メダル	松 元 叡 一	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	3年
銅メダル	吉 田 周 平	広島大学附属福山高等学校(広島県)	3年
入賞	赤 堀 将太郎	洛南高等学校(京都府)	3年
入賞	松 久 勝 彦	東海高等学校(愛知県)	3年

②第4回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2008」の開催

平成20年3月、全国の高等学校・中等教育学校及び高等専門学校約5,200校ならびに都道府県・政令指定都市教育委員会に対し募集要項を送付し、第4回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2008」の開催告知及び参加者を募りました。4月20日の締め切りまでの期間に769名(前年は424名)からの参加申込みがありました。第1次選考となる第1チャレンジは、理論問題会場試験(コンテスト)と実験課題レポートからなり、理論問題コンテストは平成20年6月14日に全国の高等学校・大学等67会場(前年は51会場)で実施し653名(前年は312名)が受験しました。実験課題レポートは6月2日の締め切りまでに、549名(前年は285名)から提出がありました。理論問題コンテストを受験し、且つ実験課題レポートを提出した参加者の総合得点をもとに第2次選考である第2チャレンジに進む106名を選抜しました。

第2チャレンジは、平成20年8月3～6日に3泊4日の合宿形式で岡山県岡山市・倉敷市及び岡山大学を会場として開催しました。ここでは理論問題・実験問題ともそれぞれ5時間の試験を実施しました。第2チャレンジの結果、金賞6名、銀賞13名、銅賞12名、優良賞19名の受賞者を決定しました。金、銀、銅、及び優良賞受賞者50名のうちIPh02008への参加資格を有する高校2年生以下の生徒9名を2009年7月にメキシコ/メリダで開催されるIPh02009日本代表候補者として選出しました。

日本代表候補に対しての教育研修は、インターネットを利用した「理論問題通信添削」、近隣の大学等を会場に実施する「実験実習指導」、冬休みの「実験実習合宿研修」、さらに春休みに「最終選考合宿」を実施し、それらの結果成績を総合的に判定評価して5名の日本代表を決定しました。

<第40回国際物理オリンピック日本代表(氏名50音順)>

蘆 田 祐 人	慶應義塾高等学校(神奈川県)	3年
安 藤 孝 志	愛知県立旭丘高等学校(愛知県)	3年
難 波 博 之	岡山県立岡山朝日高等学校(岡山県)	3年
東 川 翔	茨城県立水戸第一高等学校(茨城県)	3年
横 田 猛	西南学院高等学校(福岡県)	3年

(7) 第20回国際生物学オリンピック(2009年)

2009年7月に第20回国際生物学オリンピック(IBO2009つくば)が日本で開催されることを受けて、「国際生物学オリンピック2009組織委員会」(委員長:井村裕夫)を組織し、当財団は主催者の一員として構成メンバーに入りました。

大会開催450日前にあたる4月18日に、「IBO2009つくば」の成功に向け、大会に関する情報発信を目的にオフィシャルホームページを開設しました。

7月13日～21日にはインドで開催された第19回国際生物学オリンピックに、組織委員会委員

による視察を行いました。

8月7日には第2回組織委員会を開催し、各委員会の活動状況、2007年度予算執行、2008年度事業予算、運営委員会連絡部会新設等について審議しました。

9月2日には第1回運営委員会連絡部会を開催し、連絡部会等の執行権限範囲、2008年度予算執行状況、IB02009参加費、業者委託等について審議しました

連絡部会を10月6日、15日、29日、11月5日、20日、12月1日、16日、1月28日、3月5日に開催し、Official Invitation、Registration、参加費、年会費、式典等を集中的に審議しました。

また、普及広報活動の一環として12月6日に日本代表選手を招き、日本代表決定記者発表会を開催したのを皮切りに、ダーウィン生誕200周年を記念したプレイベントを2月～3月にかけて国立科学博物館、上野動物園にてクイズラリー/スタンプラリー、講演会を実施しました。

また、3月20日には生物大使一日園長就任式を上野動物園で実施しました。

(8) 第42回国際化学オリンピック(2010年)

2010年7月に第42回国際化学オリンピック大会が日本で開催されることを受けて、化学にかかわる産・官・学の連携のもとに実行母体として「化学オリンピック日本委員会」(委員長：野依良治)を組織し、当財団は主催者の一員として構成メンバーに入りました。

5月30日に第5回運営幹事会、6月5日に第4回組織委員会を開催し、成功目標、2008年度予算、プレイベント、募金活動等について審議を行いました。

7月12日～21日にはハンガリーで開催された第40回国際化学オリンピックに、日本委員会委員による視察を行いました。

8月25日に第4回実行委員会、8月29日に第5回財務委員会、9月9日に第6回運営幹事会、11月4日に第5回実行委員会、12月1日に第6回財務委員会、12月8日に第7回運営幹事会を開催し、各委員会の活動状況、来年度予算案作成手順、予算管理の流れ、旅費・謝金規定、業者選定等について審議しました。

12月17日には第5回組織委員会を開催し、ハンガリー大会報告、2008年度上期実績並びに棚卸資産確認、2009年度予算承認、各委員会活動状況報告等を行いました。

プレイベントの一環として浅草おかみさん会等の協力、台東区教育委員会の後援で8月9日に台東区立浅草小学校で「化学実験カー」実験教室を開催し、児童69名、保護者61名が参加しました。この「化学実験カー」による出前実験教室を各地で実施しました。

(9) 日本科学オリンピック推進委員会

国を挙げて、科学オリンピックを通して世界に挑戦する子どもたちを応援し、各オリンピックの活動を支援していくことを目的に、「日本科学オリンピック推進委員会(JSOC)」(会長：江崎玲於奈)を組織し、当財団はこの委員会の運営事務局を担当しています。

各科学オリンピック日本委員会と産官学が連携をとりつつ参加者の拡大や認知度の向上を目指し、広報活動の一環として(独)科学技術振興機構と共同して公共図書館へのポスター配布、全国高等学校長協会総会・第7回産官連携推進会議等へのパンフレット配布を行いました。

また、「青少年のための科学の祭典全国大会」と同時開催で、科学技術コンテスト紹介イベントを実施し、7月26日には科学技術館サイエンスホールにて「国際科学オリンピック日本開催

に向けて」というテーマで青少年を対象にシンポジウムを開催しました。11月22日～24日には、サイエンスアゴラ2008へのブース出展とあわせて、11月23日には日本科学未来館7FみらいCANホールにて江崎先生、金澤先生をお招きして「才能を育てる」というテーマでシンポジウムを開催しました。

2月24日に運営協議会を開催し、各科学オリンピック事業報告、日本開催の国際科学オリンピックの準備状況、JSOC事業報告および現状の課題等について意見交換を行いました。

3月16日には理事会を開催し、理事再任、各科学オリンピック活動報告、第20回国際生物学オリンピック準備状況、第42回国際化学オリンピック準備状況、JSOC活動状況等について審議しました。

また、(独)科学技術振興機構と各科学オリンピック事務局との協力のもとに作成した「科学オリンピック過去問題と解説」ダイジェスト版を日本全国の高等学校へ配布しました。

(10) キッズ・フロンティア・ワークショップの開催 ((財)新技術開発財団との共催)

「キッズ・フロンティア・ワークショップ かがく・夢・あそび —コピー機の大解剖—」を北海道小樽市総合博物館、科学技術館において開催しました。また、「第39回市村アイデア賞」表彰式を11月21日にサイエンスホールにて受賞者、保護者、引率の先生をご招待して実施しました。

(11) 地域活動支援事務局業務 ((独)科学技術振興機構受託事業)

「地域活動支援」において、活動を実施する機関・団体または個人が単独または他機関と連携して実施する活動の支援において必要な運用・調達経費の執行、活動報告書の回収等事務局業務を行い理解増進活動を支援しました。

支援企画数は276、活動数としては、1,314件を支援しました。

(12) その他の科学技術普及啓発事業

①第30回風力エネルギー利用シンポジウムの開催 (日本風力エネルギー協会との共催)

11月27日、28日、「第30回風力エネルギー利用シンポジウム」を開催しました。今年のシンポジウムは依頼講演(7件)、国内研究者による学術発表(58件)が行われ、参加者は318名でした。

②日本風力エネルギー協会の事務局活動

風力エネルギー利用促進のため「日本風力エネルギー協会」の事務局を担当し、共同で事業を進めました。

③エネルギー変換懇話会の事務局活動

エネルギー技術の発展に寄与するため「エネルギー変換懇話会」の事務局を担当し、共同で事業を進めました。

④科学技術団体連合への協力

科学技術団体連合の副会長団体として、加盟団体と共に科学技術週間の各種行事に協力しました。

⑤「第39回市村アイデア賞」事業への後援

平成20年11月21日に科学技術館で実施された(財)新技術開発財団が主催する「第39回市村アイデア賞」への後援団体として協力しました。

⑥「第52回全国学芸科学コンクール」((株)旺文社主催)への協力

(株)旺文社が主催する「第52回全国学芸科学コンクール」科学分野の最優秀作品1点に(財)日

本科学技術振興財団会長賞を授与しました。

⑦「第8回科学教育ボランティア研究大会」への後援

平成20年12月13日～14日に京都リサーチパークで実施された科学教育ボランティア研究大会実行委員会が主催する「第8回科学教育ボランティア研究大会」への後援団体として協力しました。

⑧「EARTH VISION 第17回地球環境映像祭」への協力

平成21年3月6日～8日に新宿区四谷区民ホールで実施されたアース・ビジョン組織委員会が主催する「EARTH VISION 第17回地球環境映像祭」への協力団体として協力しました。

⑨「日立建機テクノキャンプ」の開催(日立建機(株))

平成21年3月3日～5日、6大学から8名の工学部大学生の参加により、産業界の開発現場を体験する合宿型体験プログラムを実施しました。

Ⅲ. 科学技術館事業

科学技術館の展示更新と整備拡充を図り、広範な層に科学技術への興味や関心を高めてもらうための展示活動を行いました。その他、サイエンス友の会活動や特別展を開催し、特に次世代を担う青少年に対し科学技術に親しみ、科学する心を培う環境づくりを総合的に展開しました。

また、国・地方自治体、企業等が施工する博物館、科学館等教育文化施設の建設に際し、基本構想の策定から設計、製作、施工監理ならびに設置後における運営等について総合的なコンサルティング業務を実施しました。

1. 科学技術館運営事業

(1) 展示活動

①展示の更新

1) 3階E室「みんなのくるま」展示室の更新(出展：(社)日本自動車工業会)

自動車展示室の改装に向けて、(社)日本自動車工業会が主催する業界14社によるWG委員会で内容を協議し、当財団が実施設計を取りまとめました。平成20年12月22日に同展示室(3階E室)を閉室し、新たに「ワクエコ モーターランド」(2階D室)の制作に取り掛かり、平成21年4月3日にリニューアルオープンしました。

2)-1 2階D室「アトモス」展示室の更新

(出展：電気事業連合会、原子力発電環境整備機構 他)

電気事業連合会及び原子力発電環境整備機構(NUMO)が、都内中心部における原子力広報施設の設置を計画し、科学技術館のアトモスを改装してこれに充てることとなりました。改装基本計画を電事連及びNUMOから科学技術館が直接受注するかたちで業務を進め、8月末に実施設計を完了しました。10月14日～17日にスウェーデンにある地層処分研究

施設のロケ撮影を行うなど展示制作作業を進め、12月22日から展示室を閉室し解体撤去作業を開始しました。

2)-2 3階E室「アトミックステーション ジオ・ラボ」展示室のオープン

平成21年3月24日完成式典を行い、式典後一般公開しました。

「アトミックステーション ジオ・ラボ」展示室の全体概要

アトミックステーション ジオ・ラボは、地球が持つ様々なエネルギーを研究する実験ステーションという位置づけで、原子力エネルギー・自然エネルギー・化石燃料等がもつ特性を示しながら、地球環境や日本の社会事情を考えたエネルギー利用のあり方を究明する展示室です。

なかでも、未来に生きる子どもたちに深く関わる「原子力発電」と、それに伴う高レベル放射性廃棄物の「地層処分」を中心テーマとしており、それらの必要性和安全性を子どもたちにも理解できるように構成しています。

「原子力発電」では、小さな中に膨大なエネルギーを秘めたウランを地球から授かり、「原子燃料サイクル」と呼ばれる科学技術によって、それからエネルギーを効率よく取り出し、大切に利用していることを示します。

「地層処分」については、原子力発電によって発生する高レベル放射性廃棄物を、最も安全なかたちで閉じ込めることのできる地下300m以深の岩盤に埋めていることを印象づけます。

子どもたちに向けた、こうした展示を基本骨格としながら、その周辺詳細情報として、日本のエネルギー事情や新エネルギー等に関する科学的情報を補足し、同伴来訪する大人に向けた普及啓発を展開します。

3) 2階E室「北ノ丸サイクル」展示室の部分更新(出展：(財)日本自転車普及協会)

「トレールコンペア」と「シーンライド」展示の一部を撤去し、代わって「立体ハイビジョン・サイクルシアター」を新設し、7月19日にオープンしました。120インチの大画面に、1日4回、美しい自然やBMXの競技などの立体映像を上映しています。(立体上映を行わない時は、2D映像を上映)。上映作品は、「BMX」「マウテンバイク」「3Dの楽しさ」「おもしろ自転車」「自転車の歴史」「自転車安全教室」の6作品。

4)-1 4階B室「ユニバース」展示室の更新

～立体フルデジタルドームシアター整備事業～ ((財)日本宝くじ協会助成事業)

科学技術館に設置した立体フルデジタルドームの能力を十二分に活用し、効果的な運営や新規コンテンツ開発についての方針を作成するために、「科学技術館立体ドーム検討委員会」を設置し、5月26日に第一回委員会を開催しました。委員会では、

- ・科学技術館立体ドームの運営のあり方、
- ・科学技術館立体ドームの新規コンテンツの制作、
- ・ワーキンググループの設置について検討しました。また、新規名称を「シンラドーム」とすることを決定しました。委員名簿は以下の通りです。

科学技術館立体ドーム検討委員会 (順不同、敬称略)

委員長 坪井 健司 (財)日本科学技術振興財団 専務理事

委員 戎崎 俊一 (独)理化学研究所 主任研究員
林崎 良英 (独)理化学研究所 横浜研究所主任研究員
富田 悟 (独)理化学研究所 広報室長
牧野 淳一郎 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台 教授
縣 秀彦 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台 准教授
半田 利弘 東京大学 大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター 助教
山田 英徳 (財)日本科学技術振興財団 科学技術館副館長
高橋 善雄 (財)日本科学技術振興財団 科学技術館事業部長

4)-2 4階B室「シンラドーム」展示室がオープン (出展：独立行政法人理化学研究所)
～立体フルデジタルドームシアター整備事業～ ((財)日本宝くじ協会助成事業)
常時公開施設でのインタラクティブな全天周立体投影としては日本初となる立体フルデジタルドームシアター「シンラドーム」が8月20日にオープンしました。
当日は、シンラドーム完成記念式典を実施し、田中真紀子衆議院議員、河野正一(財)日本宝くじ協会常務理事、観山国立天文台台長他のご臨席をいただきました。
8月20日～31日はリニューアルオープン記念として、研究者による科学ライブショーを開催しました。

②展示室の整備

- ・入館者が楽しみながら最良の状態で見学ができるよう、展示品の修理、改善を行い、展示室の整備とサービスの向上に努めました。
- ・自動車展示室と原子力展示室の入れ替え
フロア毎の展示テーマの整理統一をはかるため、両展示室の入れ替えについて、出展団体に申し入れを行い、2階は「乗り物」を中心としてまとめられ、3階はエネルギー関連を中心とした展示構成とすることになりました。

③展示の解説および実演

展示を楽しみながら理解できるよう次の展示室で、実験の先生、インストラクターによる演説、実験を行いました。(イリュージョン、アクセス、ワークス、オプト、ユニバース、建設館、NEDO、鉄鋼、ガス、電力、自動車、アトモス)

④入館者の安全管理

財団内に設置されたCS委員会と連携して、入館者からの苦情・意見への対応を進め、入館者が安全かつ安心して見学できる環境作りを進めました。

(2) 教育普及活動

①科学技術館サイエンス友の会活動

小学3年生以上の青少年を主な対象として、科学技術に対する関心を高め、理解を深める機会を提供するため、「サイエンス友の会」を組織し、会員制による各種教室(工作教室、実験教室、パソコン教室、自然観察教室、施設見学会、レオナルド・ダ・ヴィンチ教室)を開催しました。

サイエンス友の会活動は第45期を迎え、会員数は1,945名でした。会員の内訳、行事開催回数、参加者数は次の通りです。

1) 会員数

(単位：人)

		男	女	合計
会 員	保護者	246	436	682
	被保護者	698	425	1,123
準会員		78	62	140
合 計		1,022	923	1,945

2) 行事内容、参加者数

(単位：人)

行事名	開催回数	内容	参加人数
工作教室	96	テーブルトップの製作、木遊び道具作り、なんでもベルの製作、風速計の製作 等	1,687
実験教室	133	化学反応の基礎、クロマトグラフィーで色の解剖、顕微鏡の扱い方と観察、シャボン玉の科学 等	1,941
数学教室	8	プラトンの立体、ハーモノグラフを作ろう、コンパスと定規による作図	110
自然観察教室	26	北の丸の自然に親しむ、高尾山の自然観察、秋の鳴く虫に会いに行こう、国蝶オオムラサキを見に行こう 等	932
施設見学会	11	国立天文台三鷹キャンパス見学会、君津製鐵所見学会、スバル矢島工場見学会、鹿島技術研究所見学会	346
パソコン教室	46	見ないで打とう！タッチタイピング、ホームページを作ろう、映像を編集しよう、3次元グラフィックを描こう等	438
レオナルド・ダ・ヴィンチ教室	27	レオナルド・ダ・ヴィンチ教室 第1期、第2期、第3期	99
合 計	347		5,553

②パソコン道場運営

コンピュータを活用できる人材を育成するため、科学技術館4階「パソコン道場」において各種パソコン講習会の開催、教育ソフトの体験型展示などを行いました。

1) パソコン講習会の開催

<先生のためのパソコン教室(46回開催、延べ252名参加)>

内 容：実践ワード講座、実践エクセル講座、インターネット講座、デジタルカメラ活用講座、ホームページ作成講座、実践パワーポイント講座。

対 象：幼稚園、小中高等学校の教職員および教育関係者

<一般社会人向けパソコン講習会開催、延べ名参加(736回開催、延べ3,797名参加)>

内 容：はじめてのパソコン(タッチタイピング講座、マウス操作、キーボード操作、メール入門、ホームページ入門、ワード入門、エクセル入門、USBメモリの使い方、ブログ作成、デジカメ初歩、写真の加工、名刺の作成、案内状の作成)、一日講座(ワード、エクセル、デジタルカメラ活用)、年賀状作成、無料講習会。

<外部との共催教室：JR東日本ジパング倶楽部、(社)日本セカンドライフ協会>

対 象：主にパソコンを初めて使う一般社会人

<サイエンス友の会パソコン教室の開催(44回開催、438名参加)>

内 容：タッチタイピング、3次元グラフィック、年賀状作り、アニメーション作り、ミニシール作り、画像合成など

2)教育ソフトの展示コーナーの運営

家庭や学校で使える教育ソフトを集め、パソコン教室に隣接した体験展示コーナーにおいて公開しました。

3)パソコン道場ニュースの発行

パソコンに関する情報、パソコンQ&A、教育ソフト・講習会の紹介などを掲載し、年5回(7,500部/1回)発行しました。東京都内の区・市役所の生涯学習課窓口、生涯学習情報コーナー等に配布しました。

(3) 連携・交流事業

①学校・地域との連携

1)千代田区立九段小学校 4年生理科・天文の単元におけるサポート

実施日：2009年7月9日、11日、16日

2009年7月24日～25日(千葉県岩井での臨海学校)

内 容：千代田区九段小学校において、理科専科(福田章人教諭)とともに、4年生(2クラス)の理科・天文の単元の学習支援を行いました。JAXAおよび当財団で開発・普及を手掛けた星座カメラ i-CAN を用いて、夏の大三角の見え方、色や明るさの違い、星座早見板の使い方などの解説を行った。次に、児童が実際に観察した星空について、意見を出し合い夏の大三角が本当に見られたかを検証した。最後に、臨海学校では、自宅付近では星空観察はしにくいいため、全員で星空を見ながら、夏の大三角、夏の星座を探した。また、実際に時間がたつと星が動くことも観察できました。

2)地域活動支援「北の丸自然調査隊 ー研究者と一緒に調べよう・考えようー」

(地域科学技術理解増進活動推進事業)

大妻女子大学と連携して、昆虫や星空の観察を通じて、身の回りの自然を総合的にとらえることを目的にした教室を実施しました。

<活動1：北の丸自然調査隊1 身近な自然をさがそう>

実施日時： 2008年7月27日 10:30～16:00

実施場所： 北の丸公園、科学技術館第3会議室、屋上

講 師： 石井雅幸(大妻女子大学)、宮原ひろ子(東京大学)、木村かおる(科学技術館)

指 導 員： 福田章人(九段小学校)、梶川藍(東京理科大学)、中村浩士(東京理科大学)

ボランティア : 手塚小織(大妻女子大学)、笠原秀浩(滝野川小学校)
参加人数 : 大人4名、小学生22名
内 容 : 午前中に、石井雅幸先生(大妻女子大学)の指導で、夏の北の丸公園で自然観察及び昆虫採集を実施した。午後には、太陽観察用遮光板や太陽観測用の望遠鏡などを用いての太陽観察。また、太陽観察後には、観察のまとめと、宮原ひろ子(東京大学)先生のお話をうかがった。

<活動2: 北の丸自然調査隊2 自然を比べてみよう>

実施日時 : 2008年8月3日~4日 1日目8:30~ 2日目17:30~
実施場所 : 美しの森、ペンションスケッチブックおよび国立天文台野辺山
講 師 : 石井雅幸(大妻女子大学)、半田利弘(東京大学)、木村かおる(科学技術館)
指 導 員 : 福田章人(九段小学校)、梶川藍(東京理科大学)、中村浩士(東京理科大学)
ボランティア : 手塚小織(大妻女子大学)、笠原秀浩(滝野川小学校)、小森玲枝(九段小学校PTA)、上村友子(九段小学校PTA)
参加人数 : 大人4名、小学生23名
内 容 : ・1日目
石井先生の指導のもと、美しの森での自然観察・昆虫採集を実施。宿では標本づくりの説明と標本づくりを行い、夕食後には星空観察のレクチャーと観察を実施しました。天の川や星座を探し、木星の模様やガリレオ衛星を見て、星雲や星団を観察しました。(肉眼での観察、20cm望遠鏡、35cm望遠鏡)、また夜間の昆虫の観察も希望者に対して実施しました。
・2日目
出発まで太陽の観察、バスで移動し、半田利弘(東京大学)先生の案内で、国立天文台野辺山観測所見学しました。

<活動3: 北の丸自然調査隊3 環境と自然の関係を見つけ出そう>

実施日時 : 2008年10月26日 13:30~19:00
実施場所 : 北の丸公園、科学技術館第3会議室、屋上
講 師 : 石井雅幸(大妻女子大学)、木村かおる(科学技術館)
指 導 員 : 福田章人(九段小学校)、小暮一帆(東京理科大学)、松本大樹(東京理科大学)
ボランティア : 手塚小織(大妻女子大学)
参加人数 : 大人3名、小学生21名
内 容 : 石井先生の指導で、秋の北の丸公園で自然観察を実施、夏と秋、都会と高原の自然の違いを話し合いました。標本の整理、作成。日暮れ後は、望遠鏡、双眼鏡の使い方を指導しました。

<活動4: 北の丸自然調査隊4 天体教室を企画しよう>

実施日時 : 2009年1月27日 14:00~18:00
実施場所 : 大妻女子大学 マルチメディア室
講 師 : 石井雅幸(大妻女子大学)、半田利弘(東京大学)、木村かおる(科学技術館)
指 導 員 : 中村浩士(東京理科大学)、大林弘史(東京理科大学大学院)

参加人数： 大人 28 名

内 容： 太陽観察時の注意、観測機器の選び方や使い方の説明。太陽についての講義。理科の授業や天体教室を企画するために必要な理科・天文学の知識について、半田先生にお話をいただいた。

②企業との連携

1) 日本 I B M Try Science 実験教室の開催（日本 I B M(株)との共催事業）

世界的な子供たちの科学・理科離れの傾向を改善するため、I B Mとニューヨーク・ホール・オブ・サイエンス(NYHOS)、ならびに科学技術センター協会(Association of Science - TechnologyCenters : ASTC)のパートナーシップによって共同制作・運営されているTry Science プロジェクトの日本での展開として、子供達にとってより親しみやすく、科学に対する興味を喚起できるものとするため、科学技術館で毎月1回、日本 I B M社会貢献ボランティアによる実験教室を開催しました。また地方の科学館などでの開催のサポートを行いました。

開催日：4月20日、5月18日、6月15日、7月13日、8月17日、9月21日、

10月19日、11月16日、12月14日、1月18日、2月8日、3月15日

共 催：日本アイ・ビー・エム(株)、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

会 場：4階「イベントホール」他

2) 「夢・化学-21」週末実験教室

「夢・化学-21」組織委員会[(社)日本化学会、(社)化学工学会、(社)新化学発展協会、(社)日本化学工業協会]の主催、当館の協力事業として毎週土曜日に実験教室を開催しました。学校や授業では体験できない色々な化学の世界を実際に「目で見て」「手でさわって」、化学の面白みを感じてもらおう体験型イベントで1日3回実施しました。

開 催 日 :12月6日、13日、20日、27日 実験テーマ 「ジェリーキャンドルをつくろう」

1月10日、17日、24日、31日 実験テーマ 「自分だけの表札をつくろう」

2月7日、14日、21日、28日 実験テーマ 「ほかほかカイロのひみつ」

3月7日、14日、21日、28日 実験テーマ 「粉のふしぎを体験しよう」

主 催 : 「夢・化学-21」組織委員会

協 力 : 科学技術館

会 場 : 4階「イベントホール」他

③天文・宇宙分野での連携事業

1) Yerkes Astrophysics Academy for Young Scientists(YAAYS)

・6月8日～15日

シカゴ大学ヤーキス天文台に協力し、米国内における指導者向けの天文教室の実習として、北の丸望遠鏡とユニバースの科学ライブショーを実施しました。

2) (財)日本宇宙少年団との連携による宇宙教室の実施

・7月26日、27日 コズミックカレッジ指導者セミナーに出席。

・8月7日 コズミックカレッジを科学技術館で実施。

④博物館連携活動

- ・6月11日 全国博物館館長会議(文部科学省講堂)
- ・6月12日、13日 平成20年度第1回全国科学博物館協議会総会(国立科学博物館)
- ・6月18日 第18回(平成20年度)全国科学館連携協議会総会(日本科学未来館)
- ・6月19日 平成20年度第1回千代田区ミュージアム連絡会(千代田区役所)
- ・7月8日 平成20年度第1回東京都博物館協議会常務理事会・理事会及び日本博物館協会東京支部委員会(国立科学博物館)
- ・9月12日、13日 平成20年度指定都市科学館連絡会議(札幌市青少年科学館)
- ・9月14日～20日 日豪サイエンスフォーラム交流事業(オーストラリア・キャンベラ市 豪州国立科学博物館)
- ・11月19日、20日 第56回全国博物館大会(島根県民ホール)
- ・11月27日 第145回科学博物館連絡会(東芝科学館)

⑤その他の連携事業

- ・サイエンスフォーラム 科学の鉄人2009

1年に一度、全国の科学の達人が集まり競い合うサイエンスショーです。1番人気の実演者には、“科学の鉄人”の称号が与えられました。

会 期：2月14日、15日

主 催：「サイエンスフォーラム 科学の鉄人2009」実行委員会

(4) 特別展・イベント事業

①第49回科学技術週間サイエンスカフェ&科学技術における「美」パネル展

会 期：4月19日～20日

場 所：科学技術館4階イベントホール

主 催：文部科学省

共 催：科学技術団体連合

1) 第49回科学技術週間サイエンスカフェ

科学者と一般参加者が科学に関するテーマについて気軽に語りあい、理解を深めていただくサイエンスカフェに会場を提供しました。

- ・「雪形(ゆきがた)って知っていますか？」 講師：納口 恭明 (独)防災科学技術研究
- ・「美肌の秘訣から宇宙創成まで明らかに！」 講師：鈴木 国弘 日本原子力研究開発機構
- ・「光通信とブロードバンド」 講師：亀尾 恭司 (社)日本技術士会近畿支部
- ・「猫を恐がらないマウスが教える心の仕組み」 講師：小早川 高 東京大学
- ・「コンピュータは羽生に勝てるのか？」 講師：松原 仁 公立はこだて未来大学

2) 科学技術における「美」パネル展

研究過程において見られる「感動する」画像のパネル展に会場を提供しました。

②日本自然科学写真展—自然の中の不思議を知る—

自然と科学をテーマに、自然が作り出す美しい瞬間、物理現象が見せる不思議で神秘的な瞬間などをとらえたさまざまな写真を多数展示しました。

会 期：4月29日～6月1日

場 所：科学技術館 2階ロビー

共 催：日本自然科学写真協会、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

③ロボット EMIEW とあそぼう

人間共生ロボット“EMIEW”のデモンストレーション・イベントを1日3回開催しました。

会 期：5月3日～5日

会 場：科学技術館4階特設ステージ

主 催：(株)日立製作所、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

④GWイベントー万華鏡工作教室

会 期：5月3日～5日

会 場：科学技術館4階イベントホール

主 催：日本万華鏡倶楽部、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

⑤エコ・エネルギー科学教室～親子で地球温暖化を考える～

親と子が、環境やエコ・エネルギーについて、実験やワークショップなどを通じて学ぶ機会として実施しました。

・Aコース(風力発電、太陽光発電、原子力発電)：6月8日

・Bコース(バイオマスエネルギー、燃料電池、ヒートポンプ)：6月22日

・Cコース(赤池学氏(科学ジャーナリスト)の講演、米村でんじろう氏による実験ショー)：7月30日

場 所：科学技術館2階イベントホール、サイエンスホール

共 催：読売新聞社、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

⑥コズミックカレッジ

コズミックカレッジは、いのちの大切さを基盤に、好奇心、冒険心、匠の心を備えた創造的な青少年の育成を目的とした教育プログラムです。小学生3～6年生対象の教室「月へのたび」と、4歳～小学校2年生対象の教室「星の砂をさがそう」を実施しました。

会 期：8月7日

主 催：(独)宇宙航空研究開発機構、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

⑦夏休みバイオ実験教室「バイオでわかる生きもののふしぎ」

DNAをテーマとした2種類の実験教室を中外製薬(株)と実施しました。

・8月8日、9日「DNAのふしぎに迫る！～生き物の設計図を見てみよう～」

・8月10日「犯人を探し出せ！～DNA鑑定で研究者体験～」

主 催：中外製薬(株)

共 催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

運営協力：(財)リバネス

⑧夏休み特別展「サイエンスカーニバル2008夏編」

見る、作る、探す、考える、自由研究のヒントがいっぱいの特別展を開催しました。「サイエンス屋台DE科学」11種類、「サイエンス寺子屋DE科学」10種類、「露店で工作」2種類のワークショップのほか科学実験ショー、科学戦隊実験ジャーショー、北の丸公園自然観察を実施しました。

会 期：8月9日～24日

主 催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

⑨科学技術館メールマガジン特別企画 散歩のおとも写真展

永井昭三先生と松田邦雄先生が、ハンドブック「散歩のおとも」をはじめメールマガジンで紹介してきた草木や鳥、昆虫などの写真展を開催しました。

会 期：8月9日～17日

主 催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

⑩第26回マイクロマウス東日本地区大会

マイクロマウス競技、クォーターマウス競技など3種類の競技を実施しました。

会 期：9月28日

主 催：マイクロマウス委員会日本委員会東日本支部、(財)ニューテクノロジー振興財団

共 催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

⑪特別展「日本のノーベル賞科学者展」と講演会

2008年度は日本人の科学者4名がノーベル賞を受賞されました。これにあわせて、今回の受賞者や過去の受賞者の業績について紹介する特別展「日本のノーベル賞科学者展」と講演会を以下のように行いました。

主 催：(独)理化学研究所、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

1)特別展

会 期：10月16日～11月9日

場 所：科学技術館5階フォレスト

内 容：ノーベル賞受賞の日本人科学者業績、ノーベル賞受賞者一覧など

2)講演会

日 程：10月18日、19日

場 所：4階 シンラドーム

◆ 10月18日

司会 半田 利弘 東京大学 大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター 助教

・13:00～ 「素粒子と対称性－3人のノーベル賞研究－」

多田 司 (独)理化学研究所 仁科加速器研究センター

素粒子物性研究部門 川合理論物理学研究室 副主任研究員

・14:00～ 「J-PARCで探る物質の起源とノーベル物理学賞」

齊藤 直人 高エネルギー加速器研究機構 教授

・15:00～ 「素粒子物理学の展開」

駒宮 幸男 東京大学 素粒子物理国際研究センター センター長・教授

◆10月19日

司会 戎崎 俊一 (独)理化学研究所 和光研究所 基幹研究所

戎崎計算宇宙物理研究室 主任研究員

・13:00～ 「クラゲの光るタンパク質－生命科学の革命！」

中野 明彦 理化学研究所 中野生体膜研究室 主任研究員

⑫ものづくり体験「たたら製鉄」

「近代製鉄発祥150周年記念事業」の一環として、ものづくり体験【たたら製鉄】を小学生(3年生～6年生)とその保護者を対象に川崎市民ミュージアムで実施しました。日本古来からの鉄を

作る技術「たたら製鉄」で、実際に鉄をつくり、「ものづくり」の不思議さ・楽しさを肌で感じ取ってもらうことを目的としました。

主 催：(社)日本鉄鋼連盟、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

会 期：10月18日 製鉄所見学会 場所：JFE スチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)

11月15日 事前学習会 場所：川崎市市民ミュージアム

11月16日 たたら製鉄 場所：川崎市市民ミュージアム

⑬生物学者と天文学者が語る「からだの中の小宇宙」トークショー

細胞内反応の解説を行いました。

主 催：(独)理化学研究所 オミックス基盤研究領域

共 催：科学技術館

会 期：11月16日

場 所：科学技術館シンラドーム

⑭高知大学バイオ&アグリ・オープン・スクール

「Welcome to 高(知・智・地)サイエンス ヴィレッジ」

～高知の自然から、おもしろ科学の贈り物～

日 時：平成21年2月28日～3月1日 10時～16時

場 所：科学技術館4階イベントホール

主 催：NPO高知サンエンス・ヴィレッジ、高知大学農学部

共 催：(財)日本科学技術振興財団、科学技術館

⑮国際科学映像祭 ドーム&立体プレイベント2009

日 時：3月13日～23日(11日間)

会 場：科学技術館、国立天文台、他

3月13日 オープニング・イベント 地階サイエンスホール・4階シンラドーム

3月14日～4月5日 スタンプラリー 4階シンラドーム前

⑯科学ライブショー「ユニバース」の実施

8月20日にリニューアルオープンしたシンラドームにて、原則毎週土曜日にリニューアル前に引き続き科学ライブショー「ユニバース」を下記の通り上演しました。

8月20日 戎崎 俊一 (独)理化学研究所 リニューアルオープン記念

8月21日 半田 利弘 東京大学 リニューアルオープン記念

8月22日 半田 利弘 東京大学 リニューアルオープン記念

8月23日 戎崎 俊一 (独)理化学研究所 リニューアルオープン記念

8月24日 戎崎 俊一 (独)理化学研究所 リニューアルオープン記念

8月25日 矢治 健太郎 立教大学 リニューアルオープン記念

8月26日 川井 和彦 (独)理化学研究所 リニューアルオープン記念

8月27日 半田 利弘 東京大学 リニューアルオープン記念

8月28日 平野 秀典 慶應義塾大学 リニューアルオープン記念

8月29日 伊藤 哲也 自然科学研究機構 国立天文台 リニューアルオープン記念

8月30日 永井 智哉 自然科学研究機構 国立天文台 リニューアルオープン記念

8月31日 半田 利弘 東京大学 リニューアルオープン記念
 9月6日 矢治 健太郎 立教大学
 9月13日 戎崎 俊一 (独)理化学研究所
 9月20日 半田 利弘 東京大学
 9月27日 矢治 健太郎 立教大学
 10月4日 半田 利弘 東京大学
 10月11日 永井 智哉 自然科学研究機構 国立天文台、
 鈴木 博 理化学研究所仁科加速器研究センター
 10月25日 矢治 健太郎 立教大学
 11月1日 亀谷 和久 (独)宇宙航空研究開発機構
 11月8日 戎崎 俊一 (独)理化学研究所、羽尻 公一郎 フリーランス
 11月15日 矢治 健太郎 立教大学
 11月22日 半田 利弘 東京大学、野本 知理 神戸大学 理学部
 11月29日 亀谷 和久 (独)宇宙航空研究開発機構
 12月6日 半田 利弘 東京大学
 12月13日 戎崎 俊一 (独)理化学研究所、柳瀬 亘 東京大学 気候システム研究センター
 12月20日 縣 秀彦 自然科学研究機構 国立天文台
 12月27日 矢治 健太郎 立教大学、
 小泉 伸夫 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所
 平成21年1月10日 伊藤 哲也 自然科学研究機構 国立天文台
 平成21年1月17日 矢治 健太郎 立教大学
 平成21年1月24日 亀谷 和久 (独)宇宙航空研究開発機構
 平成21年1月31日 半田 利弘 東京大学
 平成21年2月7日 亀谷 和久 (独)宇宙航空研究開発機構
 平成21年2月14日 半田 利弘 東京大学、
 亀谷 和久 (独)宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
 平成21年2月21日 矢治 健太郎 立教大学
 平成21年2月28日 半田 利弘 東京大学、松浦 晋也 ノンフィクション・ライター
 平成21年3月7日 半田 利弘 東京大学
 平成21年3月14日 矢治 健太郎 立教大学
 平成21年3月21日 亀谷 和久 (独)宇宙航空研究開発機構
 平成21年3月28日 伊藤 哲也 自然科学研究機構 国立天文台

<シンラドームにおける講演会等の実施>

- ・10月11日 科学ライブショー「ユニバース」にて特別展「日本のノーベル賞科学者展」の一部として2008年ノーベル物理学賞の研究を解説
 ゲスト:鈴木 博 (独)理化学研究所 仁科加速器研究センター
- ・10月18日 特別展「日本のノーベル賞科学者展」講演会「物理学賞解説」

司 会:半田 利弘 東京大学 大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

講 演:多田 司 (独)理化学研究所 仁科加速器研究センター

齊藤 直人 高エネルギー加速器研究機構 大強度陽子加速器研究推進部

駒宮 幸男 東京大学 素粒子物理国際研究センター

- ・ 10月19日 特別展「日本のノーベル賞科学者展」講演会「化学賞解説」

司 会:戎崎 俊一 (独)理化学研究所 基幹研究所

講 演:中野 明彦 (独)理化学研究所 基幹研究所 / 東京大学 大学院理学系研究科

- ・ 平成21年1月4日 世界天文年2009日本委員会公認企画・世界天文年2009全国一斉
オープニングイベント 科学ライブショー「ユニバース」特別番組
「おめでとう、世界天文年2009」

案内役:半田 利弘 東京大学 大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

ゲスト:奥村 純 京都大学理学部

- ・ 3月1日 ダーウィン生誕200年記念イベント

「ダーウィンを超えて——生物進化の最前線」

モデレータ:戎崎 俊一 (独)理化学研究所 基幹研究所

講 演:丸山 茂徳 東京工業大学 大学院理工学研究科

岡田 典弘 東京工業大学 大学院生命理工学研究科

⑰ミニイベント

- 1) FOREST 工作実験「ビュンビュンゴマで、色をまぜまぜ」

「色が混ざるとどうなるか？光が混ざるとどうなるか？」ビュンビュンゴマをつくって、色の混ざり方を観察する工作教室を開催した。

会 期：5月17日

- 2) FOREST たなばた「ササ飾りを作ろう」

折り紙を使って七夕飾りを作り、FORESTの笹をみんなで楽しく飾りました。

会 期：6月28日～7月7日

- 3) FOREST イベント「おと・OTO・音」

音の正体って一体何だろう？紙コップとストローという身近な道具を使って笛を作り、音を科学しました。

会 期：7月19日

- 4) 竹とんぼを作って飛ばそう@科学技術館

会 期：8月5日

主 催：どこ竹@竹とんぼ教室、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

- 5) 夏休みワークショップ「生命の神秘をのぞいてみよう」

カイコの成虫(カイコガ)はどうやってオスとメスを見分けるのか？ミツバチは仲間とどうやってコミュニケーションをするのか？を題材とした表記ワークショップを開催しました。

会期：8月27日

主 催：(財)日本科学技術振興財団・科学技術館

6) FOREST 「ゆらゆら・モビール」

画用紙やカラーセロファンを使ってモビールを作りました。

会 期：9月27日、28日

7) FOREST 工作ワークショップ「でんでんゴマを作って遊ぼう！

表と裏に描かれた絵をくるくる回すと重なり合っただ一つの絵に見えます。どうしてそのように見えるのでしょうか？ワークショップを通して残像現象について考えてみました。

会 期：10月12日、13日

会 場：5階 FOREST

8) FOREST 「落ち葉色のひみつ」

北の丸公園から集めた落ち葉を使って、葉っぱの色の秘密を探る実験やたくさんの落ち葉の中からテーマに沿った落ち葉を見つけて観察しながら、どちらが決められた条件に近いかというゲームを行いました。

会 期：12月6日、7日

9) FOREST 「クリスマスオーナメントをつくろう」

木の実や端切れ、ビーズなど身近にあるものを使い世界に一つしかない自分だけのオーナメントを作りました。

会 期：12月20日～25日

10) FOREST 「星☆と音符♪のクリスマス」

シンラドームで冬の星座、星の色の違い、それぞれの星との距離などを解説したのち、来館者が参加してのハンドベル演奏などの体験を通して、光や音を感じてもらいました。

会 期：12月23日、24日

会 場：4階シンラドーム

11) FOREST 「『100兆分の1の確立に挑戦！』～挑戦者777,777人達成記念のお祝いをしよう！」

ゲノム展示室の『100兆分の1の確立に挑戦！』展示において、挑戦者777,777人目に該当した来館者に記念品と達成証明書をお渡ししました。

会 期：平成21年2月12日

12) FOREST 「フォレスト村の宝さがし」

「伝えよう」とする心の奇跡に焦点をあて、地図作りを通して他者との距離の取り方や、伝えることのむずかしさを探り、出来上がった地図を使って、FORESTをより楽しんでもらいました。

会 期：平成21年2月28日

13) FOREST 「命ってなに？(DNAわたしの設計図)」

紙芝居を使用してわかりやすく細胞とDNAについて説明したあと、ブロッコリーのDNA抽出実験を行いながら、全ての生き物も同じように自分が自分になるための設計図を持っていることを理解してもらいました。

会 期：平成21年3月14日

(5) 広報活動

①メディア

科学技術館の事業PR、展示室の更新、特別展、ミニイベントの開催等について、テレビ、新聞、雑誌等に対して記事掲載依頼をするなど積極的に広報活動を展開しました。主な放映、記事掲載は次の通りです。

1)新聞・雑誌等

DVJ、週刊新潮 国立科学博物館「milsil」、月刊「石垣」、
「主婦と生活社」単行本「でんじろう先生の科学あそび」JOGMEC NEWS、
サナルジャーナル、季刊情報誌「CUE」、毎日新聞社 エコノミスト、
THE 保育 101 の提言 vol.2、月刊人事労務、週刊ファミ通
日刊工業新聞、読売新聞 エコ・エネルギー科学教室、
日刊工業新聞 特別展「サイエンスカーニバル」
朝日新聞 シンラドーム、毎日新聞 シンラドーム、映像新聞 シンラドーム
東京書籍 国語教科書4年、読売新聞、住友化学社報「すみともかがく」
小学館 小学1年生4月号、ロボコンマガジン52号、中日新聞 天体観測の様子
月刊クレーン 建設館、月刊「天文ガイド」 シンラドーム

2)テレビ・ラジオ

フジテレビ 奇跡体験!アンビリバボー 5階ワークス
フジテレビ 一攫千金 4階鉄の丸公園
日本テレビ 皇室日記2階サイエンスライブラリー、自転車広場、北ノ丸サイクル
NHK アインシュタインの眼 5階ワークス
FM長野 スタジオ・シエスタ
テレビ朝日 クイズ雑学王(8月27日)2階自転車文化センター
フジテレビ 平成教育委員会2009 実験ジャージャーショー
CS朝日ニュースター「よみがえれニッポン」自転車
サイエンスチャンネル 実験教室
毎日放送「VOICE」NEDO

3)ホームページその他

千代田区広報用ビデオ(未定) 館内
(株)アストロアーツ(8月19日) シンラドーム
ネットジャーナリスト協会(8月20日) シンラドーム
中山学院WEB(11月掲載) 館内、ノーベル賞展講演
情熱大陸DVD 5階ワークス

②入館者誘致

1) 団体入館者対策

12月に次年度の社会科見学および修学旅行の案内資料として、関東地方および福島、長野、山梨、静岡各県の小学校6,007校、中学校は東北地方、関東地方などの各県4,500校、旅行者870件に当館のパンフレットを送付しました。

2) 個人入館者対策

入館者サービスと個人入館者増を図るため、科学技術館のホームページ上に入館割引券を引き続き載せました。また、東京の美術館・博物館等の共通入館券「東京・ミュージアムぐるっとパス」スタンプラリー(平成20年4月1日～平成21年3月31日)に昨年に引続き参加しました。

③入館者状況

	平成20年度 (開館日数 359日)		平成19年度 (開館日数 360日)	
	人数	割合	人数	割合
個人入館者数	350,596人	58.39%	390,221人	63.5%
団体入館者数	249,795人	41.61%	224,128人	36.6%
合計	600,391人	100%	614,349人	100%

④展示の特別案内

- 7月8日 甘利明経済産業大臣 4名
- 8月20日 河野正一(財)日本宝くじ協会常務理事 3名
- 8月27日 (財)新技術開発財団 望月延雄部長 2名
- 9月5日 大阪市立科学館 蔵野芳男副館長 2名
- 9月8日 日本科学未来館 毛利衛館長 4名
- 11月14日 (社)日本自動車工業会 青木哲会長、同常任委員会 吉見幹雄委員長 6名
- 3月24日 (社)日本自動車工業会 青木哲会長
- 3月26日 東京電力(株) 武藤栄常務

(6) 巡回展

①巡回型展示「美を科学する」制作 (日本財団助成事業)

本展示では、「美しさ」とは何か、より美しさを求める女性のコスメティックの世界やファッションでは時代に即したあるいは時代を先取りした研究開発、科学技術や心理学などがどのように応用されているのか解き明かしながら、参加体験できる展示の制作を行いました。平成20年度では、「美の歴史」をはじめ「目的別の化粧品」や「脳科学と化粧」の展示を制作しました。制作実施にあたっては下記委員による制作企画会議を開催し展示アイテムおよび内容を決定しました。

<委員> (順不同)

- ・岩田 憲二 愛媛県総合科学博物館・学芸課長
- ・根本 利之 花王ミュージアム館長
- ・富澤 洋子 ポーラ文化研究所・司書
- ・田中 俊宏 資生堂ビューティーソリューション開発センター・次長
- ・関 瑞子 資生堂ビューティーソリューション開発センター研究員
- ・山田 英徳 (財)日本科学技術振興財団・特別参与

<アドバイザー> (順不同)

- ・内藤 昇 (株)コーセー 研究所 所長
- ・高橋 稔 (株)コーセー 研究推進グループ研究主席

- ・林 照次 (株)カネボウ化粧品 研究企画グループ主席研究員・美容医療グループ部長
- ・内藤 史郎 日本化粧品技術者会
- ・伊東 和子 日本化粧品工業連合会

②マグネット展 (開催回数1回)

- ・3月20日～6月1日 つくばエキスポセンター(茨城県)
- ・11月7日～1月12日 富士川楽座2階体験館どんぶら(静岡県富士川町)
一環として11月12日、13日に米村でんじろうサイエンスショーを実施。
- ・11月10日～1月12日 富士川楽座どんぶら館(静岡県富士川町)

③実験ジャー

- ・4月19日 (独)理化学研究所(埼玉県) ※(独)理化学研究所一般公開の中で実施
- ・8月2日 電気の史料館(神奈川県横浜市)
- ・8月23日 TEPCO SONIC (埼玉県さいたま市)
- ・11月16日 汐留シティセンターファミリーデー 於：汐留シティセンター

④すずきまどか実験ショー

- ・6月8日 石巻市河北総合センター ビッグバン
東北電力石巻営業所主催の「ゴール電化フェスタ 2008」にて「サイエンスショー」
として実施。
- ・7月22日～25日 パシフィコ横浜アネックスホール(横浜市)
下水道展 '08 横浜にて、ワークショップと一緒に実施
- ・7月27日 海津市海津公民館(岐阜県)
- ・8月16日 TEPCO SONIC(さいたま市)
科学技術館出張サイエンスショー
家の電気と静電気「電気のことを知ろう！学ぼう！」として実施。
- ・10月14日 富士見市立ふじみ野小学校サイエンスショー(埼玉県)
- ・10月28日 松戸市立横須賀小学校サイエンスショー(千葉県)
- ・11月9日 東北電力サイエンス教室 於：コラッセふくしま(福島県福島市)
- ・11月16日 汐留シティセンターファミリーデー 於：汐留シティセンター
- ・11月23日 東北電力サイエンス教室
於：ふくしま森の体験科学センタームシテックワールド(福島県須賀川市)

⑤ラビレット展

- ・7月20日～8月30日 海津市海津公民館(岐阜県)
「数遊び&楽しいコンピュータ展」として開催

⑥スポーツの科学

- ・7月19日～8月31日 富士川楽座(静岡県富士川町)
※「みんなのスポーツ」の一部として開催

⑦出張ユニバース

- ・8月9日 神奈川県藤沢土木事務所汐見台庁舎なぎさギャラリー
※第3回ちがさき宇宙記念日の一環として実施。

⑧感覚体感フィールド展

- ・10月18日～11月30日 防府市青少年科学館ソラール(山口県防府市)
- ・12月10日～1月10日 福岡県青少年科学館(福岡県)
- ・1月17日～3月8日 所沢航空発祥記念館(埼玉県)

⑨ノーベル賞展

- ・2月1日～2月28日 大阪科学技術館(大阪府)
- ・3月5日～4月5日 沖縄チルドレンミュージアム(沖縄県)

(7) 学芸活動

①博物館学芸員養成活動

博物館学芸員資格取得を目指す大学生を実習生に受け入れ、博物館実習を実施しました。

- ・8月12日～22日(10日間) 9大学9名
- ・12月9日～19日(10日間) 6大学6名

②学会等発表

「科学技術におけるロボット教育国際シンポジウム」

当財団が特別協力している教育用ロボット競技会「WR02008 横浜国際大会」の一環として10月31日に行われた、教員向けシンポジウム「科学技術におけるロボット教育国際シンポジウム(1st International Symposium on Robotics in Science and Technology Education)」において、丸山副主任が論文発表と口頭発表を行いました。

③科学技術館学芸活動紀要

2007年度の学芸活動について投稿された論文(1本)をVol.3としてまとめ、Vol.2(2006年度と共にweb公開を開始しました。

2. 企画・コンサルティング事業

(1) 教育・文化関連事業

①鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務 ((財)鳥取市文化財団受託業務)

同館の展示装置のメンテナンス業務を受託し、7月と2月に定期点検を実施しました。

②青森県立三沢航空科学館メンテナンス業務 (NPO法人テイクオフみさわ受託事業)

同館のメンテナンス事業とイベント事業を指定管理者であるNPO法人テイクオフみさわより受託し、4月4日、5日に実験ジャージャーショーと実験工作を実施しました。

イベント事業としては、7月20日～8月24日に恐竜展を実施しました。

今期は、契約仕様書に基づく定期点検保守を行いました。

12月8日、9日に展示物及び展示装置について冬休み前の定期点検を実施しました。

3月9日、10日に展示物及び展示装置について春休み前の定期点検を実施しました。

③横須賀市浦賀ドックサイエンスイベント (横須賀市受託事業)

毎年8月に実施される浦賀ドックサイエンスイベントの企画及び運営実施業務を受託しました。

8月22日、23日に住友重機械工業(株)浦賀工場内の浦賀ドックにて、サイエンスイベントの企画及び運営を実施しました。

④岡崎市子ども科学館(仮称)基礎調査及び基本構想策定業務(岡崎市教育委員会受託事業)

岡崎市教育委員会より、上記業務を受注し、上半期は類似施設の視察を中心とした基礎調査作業を下半期には、基本構想委員会を開催して構想書を策定しました。

⑤平成 20 年度環境測定分析環境測定分析統一精度管理調査 情報システムの運用業務

(財)日本環境衛生センター請負事業)

環境省請負業務として(財)日本環境衛生センターが実施する平成 20 年度環境測定分析統一精度管理調査における情報収集、公開の為にコンピュータシステムの運用業務を、情報システム開発部と協力で開発した報告書回収機能で平成 20 年度分析結果報告(9 種類)の受付・回収を実施し、最終成果物等を納品し本事業を完了いたしました。

⑥平成 20 年度自然環境保全センター新本館展示施設整備業務

(神奈川県自然環境保全センター受託業務)

前年度受託した神奈川県自然環境保全センターの展示設計業務に引き続き、平成 20 年度業務として展示製作設置業務を 6 月に受注し、展示物の制作・設置を実施した。

⑦科学技術館・原子力展示室 改装設計・施工

(電気事業連合会及び原子力発電環境整備機構受託事業)

「アトモス」展示室の更新および「アトミックステーション ジオ・ラボ」展示室の更新(22 ページ)を参照。

⑧平成 20 年度科学的思考に沿った環境教育プログラムの開発等業務

(環境省請負事業)

本事業は、一般の興味を惹きつつ「科学的な思考」を環境教育にどのように反映し、プログラム化できるかなどの課題を整理し、「水環境」の問題をテーマとした環境実験プログラムを開発し、さらに科学技術館での予備実験、実証実験を重ね、開発した環境実験プログラムをより良いものにしていくとともに、普及を目的として、全国の科学系博物館等の環境教育関連施設等(5箇所)や学校等の協力・連携により普及実験を行いました。

事業報告書を納品し、本事業を完了いたしました。

⑨大成風のミュージアムリニューアル

(大成高校受託事業)

大成風のミュージアムは段階的に「風」の展示から「地球環境」の展示に改装を進めており、平成 20 年度は 2 年目のリニューアル工事を実施しました。

⑩その他

・厚生労働省から国立ハンセン病資料館の管理運営業務(平成 21 年 4 月～)を受託しました。

IV. 情報システム事業

コンピュータグラフィックス技術、データベース・情報検索技術等の最新情報処理技術によって高度情報化社会のニーズに応えるべく、官公庁、団体、企業等から業務を受託し、各種情報処理システムの研究開発を行うと同時に、インターネット等を活用した情報処理サービス業務を実施しました。

1. 簡易放射線測定器「はかるくん」の貸出し委託業務 (文部科学省受託事業)

本事業は、文部科学省研究開発局開発企画課立地地域対策室から受託した業務です。一般市民及び小・中・高等学校等の団体を対象に簡易放射線測定器「はかるくん」を無料で貸出し、それをを用いた身の回りの放射線測定等を通して、放射線の存在を身近に実感してもらうことにより、放射線に関する知識の普及と理解増進を図るものです。

平成12年度から18年度まで受託していた自然環境・放射線 Web 事業及び昨年度の本事業における簡易放射線測定器「はかるくん」の利用実績や、先生方のネットワークを活用し年間貸出し目標を35,000台に設定しました。3月末時点の実績値は35,142台であり、目標値を上回る結果を残すことができました。また、簡易放射線測定器「はかるくん」を用いた説明会については、学校や地方科学館等において、133回実施し、放射線に関する基礎知識と「はかるくん」の貸出し制度の普及に努めました。

また、本事業では、「はかるくん」事業評価委員会及び「はかるくん」実践・研究作品審査会を組織し、事業内容評価及び実践・研究作品審査を行い、報告書を取りまとめました。

「はかるくん」事業評価委員会

委員長	中村 尚司	東北大学名誉教授
委員	碧海 西葵	消費生活アドバイザー
委員	井上 チイ子	(社)女性職能集団 WARP 理事長
委員	東嶋 和子	科学ジャーナリスト
委員	西原 英晃	京都大学名誉教授
委員	松浦 辰男	放射線教育フォーラム理事 事務局長
アドバイザー	櫻井 清人	文部科学省 研究開発局開発企画課立地地域対策室長
アドバイザー	大縄 哲也	文部科学省 研究開発局開発企画課立地地域対策室 企画係

「はかるくん」実践・研究作品審査会

審査員長	飯本 武志	東京大学環境安全本部准教授
審査員	秋庭 悦子	NPO 法人あすかエネルギーフォーラム理事長
審査員	浅田 浄江	ウイメンズ・エナジー・ネットワーク (WEN) 代表
審査員	市村 毅	つくば吾妻小学校教諭
審査員	大橋 篤	奈良教育研究所指導主事
審査員	高原 剛	埼玉県富士見市立勝瀬中学校教諭
審査員	戸田 一郎	(有)ラド取締役、元富山第一高等学校教諭
審査員	前畑 京介	九州大学大学院工学研究院准教授

2. 平成20年度電源立地推進調整等事業(放射線教室) (東北経済産業局受託事業)

本事業は、東北経済産業局資源エネルギー環境部資源エネルギー環境課総合エネルギー広報室から受託した業務です。原子力発電施設の新規立地・増設予定地域において、次世代を担う中学生を対象に、放射線についての正しい知識として、自然界に存在する放射線の確認や、身近なものからも放射線が出

ていることを認識し、また、生活の中での放射線の利用など、社会に役立っていることを理解してもらうことを目的としています。

本年度は、下記の通り青森県大間町及び東通村の3つの中学校において放射線教室を開催しました。

- 1) 開催学校：大間町立奥戸中学校、大間町立大間中学校、東通村立東通中学校
- 2) 対象学年：中学1年生(奥戸中学校は全校生徒対象)
- 3) 参加者数：奥戸中学校 43名、大間中学校 69名、東通中学校 77名
- 4) 開催日時：平成20年10月7日 13:35～15:25 奥戸中学校
平成20年10月8日 10:35～12:20 大間中学校
平成20年11月19日 10:45～12:35 東通中学校
- 5) 講座内容：講義(放射線の種類、発見の歴史、利用方法等)
体験実習(自然界の放射線測定、霧箱の実習等)
その他放射線に関すること、アンケート等の実施

3. 平成20年度原子力安全規制情報広聴・広報事業の委託業務 (経済産業省受託事業)

本事業は、経済産業省原子力安全・保安院原子力安全広報課から受託した業務であり、原子力の安全規制に関して、国の制度や組織体制、原子力保安検査官事務所の取組に至るまでの様々な情報を分かりやすい内容で、また、欲しい情報に簡単にアクセスすることができるホームページ等を紹介していくことを目的に、原子力の安全に関するページとメールマガジンの企画・制作・運営およびオンデマンド配信を実施するものです。

本年度は、メールマガジン第77号から第98号までの発行および音声配信サービスを行い、原子力の安全に関連するホームページ(原子力安全・保安院通信、各種シンポジウム、各種パンフレット、職員からのメッセージ、対話の集い、住民説明会、原子力安全保安検査官事務所、原子力防災訓練等)を製作しました。また、各種シンポジウム、住民説明会、NISA紹介ビデオ、NISA-TV等の動画配信を実施しました。さらに、本事業の総括として事業報告書の取りまとめを行いました。

4. 平成20年度科学技術振興に関する開発研究等補助事業 (財団法人JKA補助事業)

本事業は、財団法人JKAの自転車等機械工業振興補助事業として「ユビキタス社会における生涯学習機関での情報機器のあり方に関する調査研究」というテーマで補助金を受けた事業です。

本年度は、科学技術館事業部と連携を密にし、インストラクターを含む関係者の意見を参考にし、NGN(Next Generation Network)をキーワードにコミュニケーション機能およびコンテンツを拡充し実用に向けたシステムの調査研究を実施することとし、下記の日程にて、科学技術館各階展示ブースにおいて、iPhoneを使った科学館学習支援システムに関する実証実験を実施し、データの収集と分析を行いました。

本事業では、ユビキタス社会における生涯学習機関での情報機器のあり方に関する研究委員会を組織し、調査研究の実施内容検討と実証実験結果について評価し、報告書を取りまとめました。

ユビキタス社会における生涯学習機関での情報機器のあり方に関する研究委員会

委員長	廣瀬 通孝	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
委員	池井 寧	首都大学東京 システムデザイン学部 准教授
委員	季里	(株)七音社 取締役
委員	葛岡 英明	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授
委員	椎尾 一郎	お茶の水女子大学 理学部情報科学科 教授
委員	蔵田 武志	(独)産業技術総合研究所 主任研究員
委員	西岡 貞一	筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 教授

「iPhoneを使った科学館学習支援システム実験」

日時：平成21年3月19日～平成21年3月22日

場所：(財)日本科学技術振興財団 科学技術館

実験参加者：

10代：4名	20代：8名	30代：7名
40代：8名	50代：2名	60代：1名
計：30名	(男性24名、女性6名)	

「iPhoneを使った科学館学習支援システム」実証実験レポートとしてメディアに掲載されました。
(<http://robot.watch.impress.co.jp/cda/news/2009/04/03/1703.html>)

5. 自主研究開発事業

次世代科学館情報環境の研究開発

本事業は、科学館、博物館などにおけるIT活用として相応しい研究・開発テーマを「次世代科学館情報環境の研究開発」として取り上げ、大学等の研究機関との連携による自主研究開発事業として展開することにより、情報処理技術の研究開発とその促進及び情報の提供を推進しました。

(1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発

何らかの事情で博物館に来館することのできない人が、博物館に設置されているロボットを遠隔操作することによって、展示物を鑑賞することができるシステムの研究開発を実施しました。

本年度は筑波大学葛岡研究室との共同研究については、科学技術館内にてロボットを用いた鑑賞行動の実験を12月20日、21日に実施しました。

葛岡研究室とは別に、サイバーステップ社より、自社で展開している次世代インタラクティブ装置研究事業の研究フィールドとして科学技術館が活用できないかという申し出があり、8月19日にネットワークロボットCR-01を館内に持ち込み、遠隔鑑賞ができることを確認しました。

(2) 博物館における教育情報発信に関する研究

①YouTubeを活用した動画情報の発信

- ・科学技術館の展示物を紹介する動画をYouTube上に設置した科学技術館チャンネルにて公開を行いました。(6月10日)
- ・YouTubeを財団の“テレビ”としてイベント報道に活用することの試みとして、青少年のため

の科学の祭典 2008 全国大会において、開会式およびいくつかの実験ブースの取材を行い、YouTube 上に設置した科学技術館チャンネルにて公開を行いました。また、アトミックステーション ジオ・ラボ(原子力)のオープニングの取材を行い、同様に科学技術館チャンネルにて公開を行いました。

②実験演示のライブ配信実証実験

2月25日に既存のネットワーク環境である程度の画質を保ってライブ配信が可能か、またこの画質とカメラワークなしで実験演示の内容が伝わるかなどを検証することを目的に、ビデオ会議システムを使用して、科学技術館「建設館」のワークショップを所沢航空発祥記念館にライブ配信する実証実験を実施しました。

6. 受託開発事業

次のシステム開発・運用事業を受託しました。

(1) 情報処理システムの研究開発

- ・環境省 平成20年度環境影響評価情報支援ネットワーク事業(情報整備関連)業務
- ・環境省 平成20年度環境影響評価情報支援ネットワーク事業(掲載情報修正等)業務
- ・環境省 平成20年度クリアランス廃棄物情報管理システムの機能改修及び保守業務
- ・(独)理化学研究所 シンポジウム申込サイト構築・運用
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 資産管理システムに係る固定資産税計算機能改修
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 出張伺いシステム機能拡充・平成20年度アプリ改修業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 資産管理システムの平成20年度アプリ改修及びサーバ移植業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 ポータル資産管理システムの平成20年度及び21年度アプリ改修業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 成果フォローアップシステムの改修
- ・(財)電源地域振興センター 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金管理システムの開発
- ・警察庁方式運転適性検査73-1型タブレットシステムの開発

(2) PLMおよびその関連システムの研究開発

- ・PLM(Product Lifecycle Management)システムの構築
- ・PLMシステム推進の技術支援業務

(3) マルチメディア・データベースシステムの研究開発

- ・内閣府『アジア青年の家』ウェブサイトの作成・運用業務
- ・(独)科学技術振興機構 科学技術・理科教育のための革新的デジタル教材の開発
- ・(独)中小企業基盤整備機構 e-中小企業ネットマガジン配信業務
- ・(独)中小企業基盤整備機構 J-Net21 モノ作り中小企業事例紹介コンテンツ作成業務
- ・国立ハンセン病資料館情報システムの保守・更新

(4) 新エネルギーシステムの研究開発

- ・(財)電力中央研究所 ガスタービン保守最適化支援システム機能検証

- ・電力計算センター 分散型電源の自立運転技術解析計算

(5) その他

- ・環境省 平成 20 年度ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究業務
- ・文部科学省 ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム (HFSP) 情報提供・広報活動業務
- ・農林水産省 経営所得安定対策情報管理システムの収入減少影響緩和交付金の出力帳票の変更に伴うプログラムの追加及び修正業務
- ・(独) 科学技術振興機構 科学技術・理科教育用デジタル教材提供システムの保守・管理
- ・(財) 日本自転車普及協会 システム保守
- ・(学) 産業能率大学 債権管理システム等開発及び会計システム等運用保守
- ・(社) 電子情報技術産業協会 統計データベースシステムのデータ登録・運用業務
- ・(社) 日本経営協会 通信教育支援システム開発作業
- ・科学技術学園 PC ネットワーク運用支援
- ・科学技術館ホームページの更新・運用管理
- ・科学技術館 メールマガジン発行システムの運用管理
- ・物理チャレンジホームページの更新・運用管理
- ・通信制高校向け 教務事務 OA システムの稼動維持
- ・IC カード発行システム技術支援業務

7. 情報処理サービス事業

インターネット等を活用した情報処理サービス事業を実施しました。

アウトソーシングサービス事業

- ・通信教育 Web 受講申込システムの運用
- ・通信教育成績報告支援サービス
- ・通信教育支援システムの運用

V. 所沢航空発祥記念館運営事業

埼玉県が平成 5 年 4 月にオープンした所沢航空発祥記念館の管理運営業務について、埼玉県公園緑地協会とパートナーを組み指定管理者として選定されました(平成 20 年度から 5 年間)。当財団の経験や実績を活かし、青少年をはじめ一般を対象とした展示活動から建物および展示施設までの全般的な管理業務を実施し、わが国の科学技術の普及啓発に貢献している事業です。

1. 展示活動

団体および個人から航空に関する書籍、写真資料等約 600 点を収集しました。

(1) 展示資料の収集

- ・航空関係雑誌・図書等 477 点
- ・九一式一型戦闘機用プロペラ 1 点
- ・格納庫の鋼材の一部 1 点
- ・写真 5 点
- ・甲式三型練習機用プロペラ 1 点
- ・ネガフィルム 100 本
- ・燃料タンク 1 点
- ・エンジン関係部品 数点
- ・操縦関係部品 数点
- ・朝日新聞社訪欧飛行の航空機関士・篠原春一郎関係資料 11 点(詳細以下のとおり)
 - ・ 鋳物の盾 朝日新聞社から贈られたもの
 - ・ 額 大阪造幣局製造
 - ・ トロフィー 東久邇宮と朝香宮から贈られたもの
 - ・ 記念盾(「過哈紀念」の表記あり)
 - ・ 歓迎の辞 大正 15 年、当時の所沢町長筆
 - ・ 書籍「朝日新聞訪欧大飛行」(上下)(前間孝則 講談社 2004)
 - ・ 記念の織物(「京都成安女子学院生徒一同」)から贈られたもの
 - ・ のぼり 3 点 (「歓迎 篠原君 所澤町」の表記あり)

(2) 展示の修繕・保守

- ・「セスナT310Q」の座席が破損著しいため、新しい座席と交換し信頼性を高めました。
- ・YS-11 定期清掃を年 3 回行いました。
- ・格納庫内のセスナ170につき、背もたれ部分の改修及び昇降舵の不調箇所の調整を行いました。
- ・2階管制塔「空港の一日」のモニター傾きの調整を行いました。
- ・研究室・ベルヌーイの研究室、エアコンプレッサーを修理しました。
- ・ニッタ(株)からの依頼により同社創業者・新田長次郎の不名誉に関する新聞記事を「国産機の初飛行」から切除しました。

(3) 展示の更新

- ①展示館 1 階データセンターのソフト及びパソコンの更新。
- ②展示館 2 階空の Q & A のパソコンモニターと本体の更新。
- ③大空のエンターテイナーのプロジェクターの更新。
- ④「大型映像館」上映フィルムの更新。

巨大スクリーン、高画質の I M A X システムによる大型映像館では、次の通り年間を 4 期に分け各期 1 本ずつ合計 4 本の作品を上映しました。

- ・ 4 月 8 日～ 6 月 29 日「オーシャンオアシス」バハカリフォルニア 天使と出会う海
- ・ 7 月 1 日～ 9 月 19 日「ダイナソーDX」～パタゴニア・巨大恐竜の謎～
- ・ 9 月 20 日～12 月 28 日「ザ・ドリーム・イズ・アライブ」～宇宙へのあこがれ～
- ・ 1 月 2 日～ 4 月 5 日「ゲゲゲの鬼太郎 冒険！妖怪横丁妖怪王ベリアル」「ふたりはプリキュアスプラッシュスター マジック☆ドキッ！シアター」「天までとどけ」

(4) 展示資料の借用

交通博物館旧蔵の以下の4点の資料が鉄道博物館から埼玉県に貸与され、平成21年3月19日に当館格納庫に収蔵されました。

「スピリットオブセントルイス号模型」「モーリス・ファルマン機模型」「玉虫型飛行機模型」「航空灯台」

(5) 展示資料の近代化産業遺産群認定

平成21年2月23日に「会式一号機」(レプリカ)及び「中島九一式二型戦闘機(胴体部)」が経済産業省より「近代化産業遺産群 続33」に認定されました。

(6) 航空遺産資料の調査研究

九一式実物資料活用評議員会を開催し、実施チームと製作に関する打ち合わせを行いました(4月18日)。

(7) その他

格納庫内のヘリコプター・川崎KH-4を日本大学生産工学部へ移設しました(6月5日)。

2. 特別展等の開催

(1) 特別展の開催

① ゴールデンウィーク特別展「フライト・シミュレータの世界」の開催

会 期 4月19日～5月6日

内 容 ジャンボからセスナまで各機体の飛行体験が出来るフライトシミュレータソフトを設置し、航空機への理解と関心を深めました。

② 特別展「田中盛穂が描く旅客機の世界」の開催

会 期 6月7日～6月29日

内 容 故・田中盛穂氏が描いた、1910年代の複葉機から現代のA380までの旅客機の絵画64点を展示しました。その技法や考証の確かさは専門家の高く評価するところであり、作品を通して旅客機の技術的進歩を知るのみならず、夢やロマンを深く感じることができました。

協 力 田中芳子氏、近藤光正氏

③ 「模型飛行機展示会」の開催

会 期 5月3日～5月6日

内 容 模型飛行機製作(彩色)同好会 SLB(ストックレスプラザーズ)の作品約100機を展示しました。

④ 夏休み特別展「キミも古生物学者になれる！」の開催

会 期 7月19日～8月31日

内 容 ・実物アンモナイトの化石発掘体験コーナーを行いました。

・3D映像の上映を行いました。

・アンモナイト化石の実物を展示しました。

・化石クリーニング教室(8月15日、27日)

北海道のアンモナイトモジュールを使い、化石についている不要な石を取り除いて、

アンモナイトの化石を取り出す体験教室を行いました。

協 力 東京電力(株)、日向重光氏

⑤所沢航空記念公園 30 周年記念「30 周年フェスタ」

会 期 9 月 20 日

内 容 有馬朗人氏による基調講演
川村康文氏による科学実験ショー

2008 年度ミス日本「空の日」の八木菜摘さんが「1 日館長」を務めました。

⑥ 秋の特別展「ようこそ客室乗務員のすばらしい世界へ～スチュワーデスからキャビンアテンダントへのあゆみ～」の開催

会 期 10 月 18 日～11 月 30 日

内 容 客室乗務員が「航空会社のイメージアップ」に果たした役割を、1950 年代から現在における「制服」「カレンダー」「テレビドラマ」「映画」「時刻表」等に関する実物資料を通して紹介しました。

協 力 (株)日本航空、東映(株)等

⑦ 日本のノーベル賞科学者展

会 期 平成 20 年 12 月 6 日～平成 21 年 1 月 12 日

内 容 ノーベル賞とは何か、どのような賞があるのか等の疑問に答える展示とともに、これまでの日本人受賞者のプロフィール等を紹介しました。

協 力 科学技術館

⑧「感覚体感フィールド」展

会 期 平成 21 年 1 月 17 日～平成 21 年 3 月 8 日

内 容 視覚、触覚など、人間が持つ感覚機能の不思議さ、素晴らしさを再認識する体験型の展示を紹介しました。

協 力 科学技術館

⑨春休み特別展「アニメーションのしくみ」

会 期 平成 21 年 3 月 20 日～4 月 5 日

内 容 大型映像作品「ゲゲゲの鬼太郎 冒険！妖怪横丁 妖怪王ベリアル」「ふたりはプリキュア スプラッシュスター マジック☆ドキッ！シアター」に関連する特別展として、新旧のアニメーションの製作過程やデジタル技術を用いた最新のアニメーションについて紹介したほか、「ソーマトロープ」「パラパラまんが」「ビニール焼き」の体験教室を行いました。

⑩ゴールデンウィーク大型映像フェスティバル

会 期 平成 21 年 4 月 22 日～5 月 6 日

内 容 通常上映作品「オーシャンオアシス」に加え、「インドトラの王国」というソフトも上映しました。

⑪夏休み大型映像フェスティバル

会 期 平成 21 年 8 月 2 日～17 日

内 容 通常上映作品「ダイナソーDX」に加え、「トロピカルレインフォレスト」という

ソフトも上映しました。

⑫クリスマス大型映像フェスティバル

会 期 平成 21 年 12 月 9 日～25 日

内 容 通常上映作品「ザ・ドリーム・イズ・アライブ」に加え、「サンタ VS. スノーマン」というソフトも上映しました。

⑬大型映像フェスティバル

会 期 平成 21 年 3 月 14 日～31 日

内 容 通常上映 3 作品に加え、「3D ワンダフルプラネット～絶滅！進化！地球アニマル図鑑～」という立体映像のソフトも上映しました。

(2) ミニイベント

①作ってみよう！大昔のクラッカー

会 期 8 月 7 日、8 日

内 容 所沢産の地粉を使って、古代クラッカーを作りました。

協 力 東京電力(株)志木支社

②第 5 回 彩の国科学大賞入選作品展

会 期 8 月 1 日～9 月 7 日

内 容 彩の国科学大賞入選作品の研究成果レポートを展示しました。

協 力 埼玉県

③400 万人達成イベント

会 期 10 月 11 日

内 容 400 万人目のお客様に、記念品等を贈呈しました。

④「わくわく！工作ひろば」～作って飛ばそう竹とんぼ他～

会 期 11 月 16 日

内 容 竹とんぼ、木笛やうぐいす笛、ゆび編み、ゴッズ・アイ (God 's eye) といった、手作り工作イベントを有料(1 個 300 円)で開催しました。

⑤クリスマスコンサート 2008

会 期 12 月 23 日

内 容 ハンマーダルシマー奏者(一零 base 氏)によるクリスマスソングを織り交ぜた演奏会を実施しました。

⑥新春凧工作教室

会 期 平成 21 年 1 月 3 日

内 容 正月恒例の凧制作の指導を実施し、今年は正月らしい「こま」をイメージした「こま凧」の製作を行いました。

⑦ミュージアム・シアター・ワークショップ (MTW)

会 期 平成 21 年 2 月 7 日、8 日

内 容 記念館の展示を演劇で紹介するイベント

「大空へのあこがれ」をテーマに展示館内全体を使って、演劇パフォーマンスを実施しました。

協 力 MTW(ミュージアム・シアター・ワークショップ)、花王

⑧工作ひろば

会 期 平成 21 年 1 月 17 日、2 月 21 日、3 月 21 日

内 容 展示館入館者を対象とした工作ワークショップ「ちよろ凧づくり」「折り紙飛行機作り」を実施しました。

⑨「ラジオ工作教室」

会 期 平成 21 年 3 月 7 日

内 容 NHKの協力により、ペットボトルを利用したラジオの製作教室を実施しました。

⑩環境科学実験プログラム 2009 「水ってなんだろう」

会 期 平成 21 年 3 月 14 日

内 容 米村でんじろう氏の協力で作られた環境実験プログラムとして水をテーマとした実験ショーを実施しました。

講 師 千葉 真一 サイエンスエンタテイメント

(3) 実験ショー

空気に関する実験をとおり、飛行の原理を説明する実験ショーを開催しました。

日時：10 月 25 日

講師：山田 善春 ONSEN 代表、大阪市立高等学校教諭

日時：10 月 26 日

講師：吉村 利昭 NPO 法人ガリレオ工房、都立小平南高等学校教諭

日時：11 月 14 日

講師：古田 豊 NPO 法人ガリレオ工房副理事長、立教新座中・高等学校教諭

日時：1 月 11 日

講師：平野 弘之 神奈川県立ひばりが丘高校総括教諭

日時：平成 21 年 1 月 12 日

講師：小田切 真 常葉大学教育学部 教授

日時：平成 21 年 2 月 1 日

講師：月僧 秀弥 坂井市立春江中学校教諭

日時：平成 21 年 2 月 22 日

講師：東郷 伸也 京都市立藤森中学校教諭

日時：平成 21 年 3 月 1 日

講師：船田 智史 樟蔭中学校・高等学校教諭

日時：平成 21 年 3 月 15 日

講師：益田 孝彦 科学の鉄人

3. 公開講座の開催

(1) 「大学航空操縦学専攻におけるエアライン・パイロット養成～ANAと東海大学～」

会 期 6 月 21 日

講師 中井 武 全日本空輸(株) 運航本部 業務推進課グループリソース企画部長
利根川 豊 東海大学 工学部航空宇宙学科 航空操縦学専攻 主任教授

(2)「重要航空遺産・九一式戦闘機の歴史的意義」

会 期 7月19日
講師 長島 宏行 (財)日本航空協会 副部長
田中 昭重 航空史研究家
近藤 亮 所沢航空発祥記念館 学芸員

(3)「JAXA タウンミーティング」

会 期 7月27日
講師 石川 隆司 (独)宇宙航空研究開発機構 理事
大貫 武 (独)宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ 超音速機チーム チーム長

(4)「航空交通管制と東京航空交通管制部施設見学会」

会 期 9月18日
講師 齊藤 喜代志 国土交通省東京航空交通管制部所属 管制官
新井 敦也 国土交通省東京航空交通管制部所属 管制官

(5)「映画『フライング☆ラビッツ』に見る現代の客室乗務員」

会 期 11月15日
講師 蔵本 憲昭 (株)電通 エンターテイメント事業局 映画・アニメ事業部プロデューサー
小澤 久美子 (株)日本航空 客室マネージャー

(6)「ノーベル賞に関するトリビア(雑学的知識)」

会 期 平成21年1月12日
講師 餌取 章男 科学ジャーナリスト

(7)「日本大学から生まれた軽飛行機たち～木村秀政関係資料から～」

会 期 平成21年3月21日
講師 久世 紳二 元(財)日本航空機開発協会
梅田 克彦 (株)ジャムコ 技術顧問

4. 普及啓発活動

(1)学習支援プログラムの開始

①展示館内にワークシートを設置し、展示見学の学習のサポートの要素を追加いたしました。

内容：所沢の歴史編、飛行機の名前編、研究室たんけん編

②展示館のガイドツアーの受付を11月5日より始めました。

内容：「航空発祥の地・所沢」を紹介するプログラム等

5. 格納庫・収蔵庫およびYS-11機の特別公開

屋外展示「YS-11機」と別棟にある格納庫・収蔵庫を一般に公開し機体の解説と来館者の安全確保を行いました。

公開日	屋外展示「YS-11機」	格納庫の展示	備考
4月5日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民文化フェア
4月6日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民文化フェア
4月19日	一般公開と質問対応	—	特別公開日
5月17日	一般公開と質問対応	—	特別公開日
10月25日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民フェスティバル
10月26日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民フェスティバル
11月14日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	埼玉県民の日
3月21日	一般公開と質問対応	—	特別公開日

6. 「県民の日」記念事業

会 期 11月14日

内 容 埼玉県民の日を記念して、記念館の各施設(展示館、大型映像館、格納庫・収蔵庫、YS-11機)を一般に無料公開しました。入場者は合計8,617名でした。

7. 連携活動

- 4月17日 埼玉県博物館連絡協議会西部地域会議に出席しました。
- 4月24日 埼玉県博物館連携協議会総会に出席しました。
- 6月5日 所沢航空資料調査収集する会総会に出席しました。
- 6月25日 航空科学博物館及び青森県立三沢航空科学館関係者と、将来における航空博物館の連携について意見交換を行いました。
- 7月25日 埼玉県博物館連絡協議会前期研究会へ出席しました。
- 10月29日 埼玉県博物館連携協議会後期研究会及び見学会に出席しました。
- 11月21日 所沢航空資料調査収集する会視察研修に参加しました。
- 10月3日 航空科学博物館及び青森県立三沢航空科学館に対して将来における航空博物館の連携についてアンケート調査を行いました。

平成21年

- 2月24日 埼玉県博物館連携協議会資料取扱講習会に出席しました。
- 3月5日、6日 全国科学館連携協議会による平成20年度全国科学館職員研修に出席しました。
- 3月18日 埼玉県博物館連携協議会第2回理事会に出席しました。

8. 航空機インストラクター活動

航空機インストラクターとして登録されたボランティアにより次の活動を行いました。

(1) 飛行機教室の開催

- ・毎月の第2・4土曜日に開催し、紙飛行機やゴム動力飛行機の製作指導を行いました。
- ・奇数月の第1日曜日など年5回の室内飛行機の製作指導を行いました。
- ・GW(5月6日)に展示館入館者を対象とした特別工作教室を行いました。
- ・出張工作教室を年3回行った。

(2) 展示航空機保守メンテナンス

- ・展示航空機の保守メンテナンスを実施しました。

(3) 展示解説

- ・格納庫・収蔵庫、YS-11機の一般公開時に展示航空機に対する質問対応を行いました。
- ・常設展示の解説およびジャンボシミュレータの操作指導等を行いました。
- ・「飛行機博士に何でも聞いてみよう」と題して展示されている実機について紹介しました。
- ・「所沢メモリアルギャラリー」を中心に「日本の航空発祥の地・所沢」の意義をガイドツアーで紹介しました。

(4) 「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に対する質問対応

- ・当館に「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に回答しました。

9. 広報活動

(1) 一般広報

- ・埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し展示更新、映像ソフト変更時に資料を提供し、記事掲載、取材等の依頼を行いました。
- ・埼玉県内および都内、近県の主要博物館にポスター掲示とチラシの配布を依頼しました。
- ・航空公園駅内に案内看板を設置しPRを常時行いました。
- ・マスコミ各社の取材や各企業の社内報の掲載取材にも対応し、PRを行いました。
- ・彩の国だより(埼玉県発行)、翔びたつひろば(所沢市発行)に記事掲載を依頼しました。
- ・ホームページを利用して広報を行いました。

(2) 特別展広報

- ・埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し企画書等の資料を提供し、記事掲載や取材等を依頼しました。
- ・彩の国だより、翔びたつひろばに開催告示の掲載を依頼しました。
- ・所沢市周辺の児童館、学童クラブ、小中学校に対しPR用ポスターの掲示、チラシの配布を依頼しました。
- ・埼玉県内および都内、近県の博物館にポスターの掲示を依頼しました。
- ・新聞広告による告知を行いました
- ・航空公園駅の駅頭のYS-11展示場フェンスに横断幕を設置しました。
- ・西武線の電車内やターミナル駅にイベントの広告を掲示しました。
- ・所沢市の広報誌に広告を掲示しました。

(3) 団体誘致活動

- ・埼玉県内および都内・近県の幼稚園、保育園、小・中学校にパンフレットを配布しました。
- ・埼玉県内および都内・近県の旅行業者に対しパンフレットを配布しました。
- ・埼玉県内および都内の児童館に対しパンフレットを配布しました。

10. 入館者状況

開館日数 309 日

(単位：人)

		平成 20 年度	平成 19 年度
有料	展示館入館者数	64,274	71,033
	大型映像館入館者数	19,627	22,323
	小計	83,901	93,356
無料	展示館入館者数	117,508	109,636
	大型映像館入館者数	33,382	33,294
	小計	150,890	142,930
合計		234,791	236,286